



\* 0 0 0 3 7 6 1 0 0 0 \*

0003761-000

587-110

民衆政治講座

赤松克麿・著

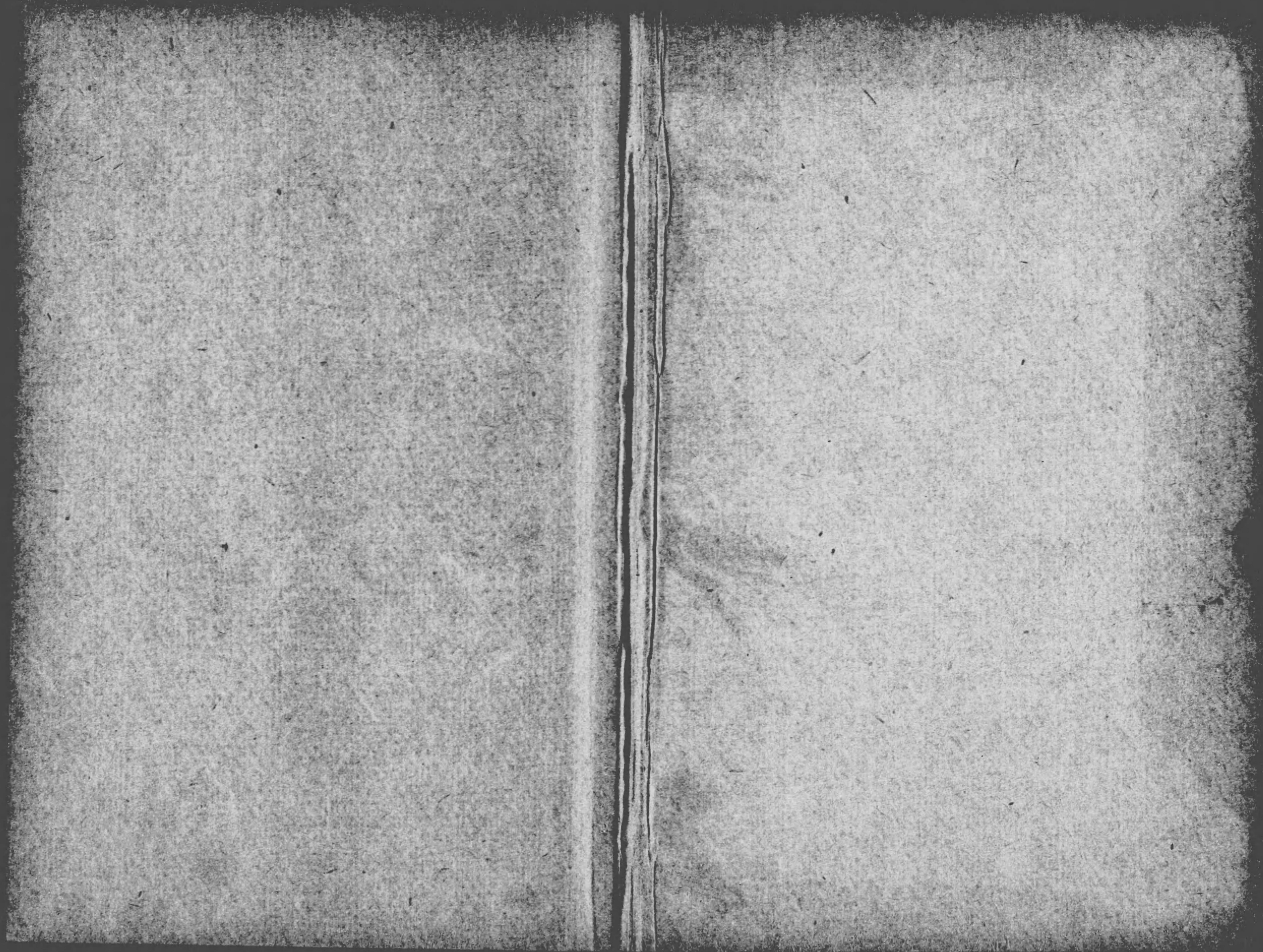
クララ社

[第10巻]

昭和4

ABA







民衆政治講座

解放運動の指導理論

赤松克麿著

SMI



376

ク  
ラ  
ラ  
世  
成







587-110

~~587-110~~

32/1  
A/34

本書を

我等が黨大衆

に捧ぐ

昭和四年八月十日

赤松克磨



目次

第一章 緒言..... 1

第二章 自由放任主義..... 11

第三章 社会改良主義..... 12

(一) 概言..... 12

(二) 温情主義..... 12

(三) 社会政策主義..... 10

一、有産階級..... 12

二、中産階級..... 12

三、無産階級..... 12

第四章 社会主義の本質..... 13

第五章 社会主義の諸激流..... 14

(一) 唯心的社会主義..... 14

(二) マルクス主義..... 14

(三) 修正マルクス主義..... 14

(四) フェビアン主義..... 14

(五) 無政府主義..... 14

(六) ギルド社会主義..... 102



第六章 共産主義と社会民主主義の対立..... 二二

(一) 階級対立の中心点..... 二二

(二) 民主主義の意義..... 二二

(三) レーニンの民主主義否定..... 二二

(四) 無産階級の階級政治..... 二三

(五) 民主主義の價值..... 二三

(六) 民主主義は無能なりや..... 二三

(七) 議會主義の準備条件..... 二三

(八) 破壊と建設..... 二三

(九) ロシア革命の實績..... 二四

(十) 飛躍主義と進化主義..... 二四

第一章 緒言



社会運動は、まづの種類のがある。無産政黨運動、労働組合運動、農民組合運動、伴給者組合運動、消費組合運動、無産婦人運動、無産青年運動、水平社運動等々の如きこれである。これらの諸運動にはそれ々の特殊の目的があり、特殊の組織形態があり、また特殊の運動方法がある。そしてこれらの諸運動は各々特殊の立場を持ちながら有機的に総合されて統一的なる社会運動戦線を形づくるのである。あたかも多数の星が調子よく連絡を保つて太陽系といったやうな一個の星座を構成して居るやうなのである。

さて現下の社会運動戦線を見るに、斯の如き星座が一つではなくして幾つも存在して居る。例へば社会民衆黨を中心とする星座には、同系統の労働組合、農民組合、伴給者組合、無産婦人團體、無産青年團體が存在し、日本大衆黨を中心とする星座、奮勞



農黨を中心とする星座にもそれ／＼各種の同系統の無産團體が存在して居る。然して各星座は互に對立し抗爭しつゝある状態にある。眼を轉じて諸外國の無産戰線を見ても、ほとんどの同じやうな状態を見出すことが出来る。しからば何が故に斯くの如き諸星座の對立があるのであらうか。どうして諸星座が打つて一丸となる譯に行かないのであらうか。その根本理由とする所は、各々の星座の持つ指導理論が相異なるからである。即ち社會運動の指導理論が相異なる以上、無産戰線は必然的に分裂するのである。

そうすると社會運動の指導理論も単一のものではなくて、種々様々の潮流があることがわかる。健全なもの不健全なもの、正しいもの間違つたもの、空想的なもの現実的なものといった風に、いろ／＼の潮流がある譯であるが、現代の如く社會運動が目覚ましく進展しつゝある時代に於いては、社會運動に従ふものと否とを問はず、これらの指導理論の諸潮流を正確に理解して置くことが肝要である。指導理論

はどうでも構はぬ、たゞ運動さへやつて行けばよいといったやうな態度は、極めて粗雑なそして危険な違り方といはねばならぬ、私は本講座に於いて、この社會運動の指導理論の諸潮流に就いて、出来る限り要領をつかんで語らうと思ふ。

私は本講の最初に於いて、自由放任主義に就いて語るつもりであるが、自由放任主義なるものは社會運動の指導理論ではない。むしろ反對に社會運動を否定する有産階級側の指導理論である。だから社會運動の指導理論の中に自由放任主義を加へるのは御門違ひであるけれども、説明の順序として、社會運動に反對する指導理論から説いて行くことが、全體の理解の上に都合だと考へるので、先づ自由放任主義から説くことにしたのである。また實際の問題として今日の資本家や地主の中には、不徹底ながらも自由放任主義の上に立つて、労働争議や小作争議を壓迫する者もあるのだから、この主義を批判することも實際の必要があると思へる。

社會運動の指導理論を二大別すれば、社會改良主義と社會主義となる。社會



改良主義は資本主義の弊害を認め、これを除去しやうと主張するものであるけれど、資本主義制度そのもの根本改革には反対であつて、資本主義制度を維持する範囲内に於いて無産階級の生活安定を期しやうとするものである。これに反して社会主義は終局に於いて資本主義制度の根本改革を行ふにあらざれば、到底無産階級の生活解放は出来ないと主張するものである。即ち社会主義は當面に於いて無産階級の生活改善のために種々なる部分的な要求をなすと共に、社会運動の發達につれて資本主義制度の根本改革を實行しやうとするものである。この兩理論の間には、既に久しい以前から闘争が行はれてきたが、それは特に世界大戰以前に於て活潑に行はれた。世界大戰によつて社会状態が急激に變化して社会運動も著しく發達するに従つて、今度は社会改良主義と社会主義との闘争よりは、社会主義内部に於ける理論闘争が激烈になつてきた。そしてこの理論闘争は、右翼派の社会民主主義と左翼派の共産主義との闘争がその代表的なものである。私が本講に於いて、社会

民主主義と共産主義とに就いて比較的多くを語らうとするのはこれがためである。社会運動の指導理論の中で、いづれが最も正しいかといふことは、何によつて決定するかといへば、それは社会進化の過程に最も適合するものが最も正しいといふ外はない。社会は必然的に進化する。この社会進化の大勢に最も實踐的に適合し、この大勢を最も合理的に促進して行く指導理論が、社会運動にとつて最も正しいものと云はなければならぬ。理論の價値は實踐によつて審判される。故に實踐的效果を離れた理論は、いかに整然たる形式を備へて居ても、指導理論として何等の價値を持たないものである。理論のための理論の研究に興味を持つことは、觀念的遊戯に耽るものであつて、社会運動にとつては百害あつて一利なきものである。すべての理論研究に於て、このことは注意すべき事柄であるが、特に社会運動の指導理論の研究に於いて觀念的遊戯に陥ることは最も戒めなければならぬ。



## 第二章 自由放任主義

自由放任主義は個人主義と呼んでもよい。この主義は個人の對絶自由をモットーとするものであつて、各個人の完全な自由競争が人類文明の母だといふのである。これは經濟學上では重農主義の主張する所である。アダム・スミスはその代表的學者である。彼はいふ、各個人は最もよく自己の利益を理解し、最もよく自己の利益を圖るべく活動するのだから、各個人の競争を自由に放任さへして置けば、各人は最大の利益を収めることになり、そして各人の最大の利益が寄り集つて國家もまた最大の利益を擧げることになる。故に國家は唯だ泥棒の番人さへして居ればよいのであつて、下手に個人の活動の自由に干渉するが如きは大きな弊害だといふのである。

自由放任主義の立場から社會問題を見るならば、國家が勞働組合法、小作法、最低賃銀法、健康保險法等のやうな社會立法を行ふことは餘計な干渉行爲である。



た労働者が労働組合を組織して地位の向上を圖ることも個人の自由を侵害する不當の行爲である。労働者や農民が貧乏になつたところが、自由競争の結果であれば仕方がない。彼等には自己の利益を追求する自由があるのだから、自由競争によつて貧乏を免れるがよい。すべてを自由放任にして置くがよい。そうすれば何んとか自然に解決の道が見出されるであらう。自由競争の原則の行はるゝところ必ずや國家全體の幸福は増進されるといふのである。

元來自由放任主義なるものは、封建制度の束縛に對する商工階級即ちブルジョア階級の反抗から生れたものである。封建制度の下にあつては、商人は様々な干渉を受けて自由に商賣が出来ない。彼等には生命財産の安全も交通の自由も甚しく不完全であつた。それで彼等は封建的束縛から各人を解放して、各人が自由に自分の利益を追求することが出来るやうな社會状態を望んだのである。そうした社會状態といふのが即ち資本主義經濟組織のことである。資本主義經濟組織の下に於い

ては、今まで慮げられてきた町人階級が、生命の安全、所有權の自由、交通の自由を保障されて、安心して自由に商賣が出来るやうになつたのである。資本主義社會は封建社會よりは商業が発達し、産業が勃興し、たしかに國家の富を増加した。社會の生産力は非常な勢で發展した。

まことに自由放任主義即ち個人主義は資本主義經濟組織の生成及び成長について重要な歴史的役割を演じた。我々は自由放任主義の或る一時代に於ける歴史的功績を認めねばならぬが、しかし資本主義の發達につれてそれが國家全體の幸福に對して夥しい弊害を生んだこともまた認めなければならぬ。資本主義經濟組織の下に於ける所謂自由競争はどんな結果をもたらしたであらうか。

資本主義時代になつてから機械の發明が行はれ、産業は一大飛躍的發達を遂げるやうになつた。これを産業革命といふ。産業革命があつてからといふものは、工場工業が盛んとなり、大量生産が行はれ、機械と労働との必要が益々大となつた。そ



して生産は、自家用のための生産、注文によつての生産といふよりは、市場のための生産となつた。企業は大規模となり、従業員も夥しい数に上つてきた。ところで封建時代の小規模の手工業制度の下に於いては、生産の指導者と労働者との関係は密接なものがあつた。家族的親密さがあつた。現代に於いても尙ほさうした多少現象は残つて居る。しかし大企業組織の下に於いては、指導者と労働階級との関係は全く分離して居る。指導者たる資本家階級は、経済關係に於いて支配者として專制的地位に立ち、労働階級は資本家階級の奴隸として労働を一日いくらで賣り、幸うじて生活を維持して行く境遇にあるのである。経済的支配者たる資本家が企業の利益を獨占し、経済的従属者たる労働階級がみじめな貧乏生活を續けねばならなくなつたのは必然のことである。

こゝに少数の有産階級と多数の無産階級との對立が生じた。資本主義は多数の貧乏な労働階級を作り出したばかりではない。多数の貧乏な俸給生活者をも作り出した。近代的大企業は多数の事務員を使用して居るが、彼等の大部分は労働者とかわらない安い月給で働いて居る。また資本主義は多数の農民を貧乏にした。資本主義は農村に侵入して、その自給自足経済を破壊し、農村を商品経済の流れに引き込んだ。農民は何んでも必要品は買はなければならぬやうになつた。都市の商人は農村の生産品は安く買つて、都市の工業品を高く賣りつけた。そこで農民は地主から押られるばかりでなく、都市の商人からも押られるやうになつた。農民の生活は必然的に苦しくなつた。小賣商人も次第に困つてきた。大資本の上に立つ大百貨店は、遠慮なく顧客を吸集して、小商人の店は寂びれてきた。つまり萬事が強いもの勝ちになつた。

昔は稼ぐに追ひつく貧乏なしといったが、今は稼いでも稼いでも貧乏が追ひつく時勢になつた。個人的な勤儉力行主義の道徳も光が失せてきた。一方には働かなくとも贅澤三昧な暮しをする有産階級があるかと思へば、他方には一生汗水たらし



て働いても貧乏神の離れない勤勞無産階級が居るのである。こうした社會状態は如何にして作られたかといへば、それは前にも述べた資本主義經濟組織の發達の結果である。資本主義は、資本私有主義、營利主義、自由競争主義の三つの柱の上に立つて居る。アダム・スミスの説いた自由放任主義は資本私有主義と營利主義とを前提としたものであつた。即ち彼れの説は資本家の發達だけを自由放任にする結果になり、一般民衆からは自由を奪ふことになつてしまつた。

現代の社會状態は確かに國家全體の幸福に反するものである。國民の大多數を生活難と不健康と無教育の状態に陥れて居る資本主義社會は、國家にとつて極めて不健全であるといはなければならぬ。アダム・スミスは各人の營利行動を自由放任にすることによつて、各人の富が増し、國家全體も幸福になると考へたが、その豫想には誤りがあつた。彼の説は産業革命以前の初期の資本主義の成長には當てはまつたが、産業革命以後の經濟的大變動のあつた社會には通用しなくなつた。彼れは

現代に於ける大資本の横暴跋扈と勤勞大衆の生活苦を見透すことが出来なかつた。尤も彼れは産業革命以前の人であるから彼れとしては無理ならぬことではある。要するに自由放任主義は、封建的經濟組織の殻を破つて、新しい資本主義經濟を樹立しそれを發展せしむる時代に於いては、一個の歴史的使命があつたが、資本主義が成熟した現代に於いては、全く時代錯誤の思想となつたのである。

社會立法に對し、また社會運動に對し、この自由放任主義を楯に取つて反對の態度を示す頑迷者流が今日全然無いとはいへない。勞働者や農民が唯だ眞面目に働かざるへすれば生活が安定すると説き、社會運動を以つて不眞面目なる不平分子の反抗運動の如く説く有産階級及びその御用思想家をしばしば見受ける。彼等は勞働階級に向つて、子供だましのやうな安價な成功立志傳を説いて聞かせる。若し彼等が眞に心から自由放任主義を説くならば、それは彼等が時代の進化を知らない無智を暴露するものである。また若し彼等が時代の進化を知つて、これを説くならば、それ



は彼等がいつまでも現在の不當な富を享樂しつゞけやうとするがために民衆を巧みに欺かんとする魂膽から出て居るのである。

自由放任主義は既に歴史的使命を果たして死んで行つたのである。若しまだ死に切れないでウロ／＼して居るものがあれば、我々はこれを墓の下に追ひ込まねばならぬ。

### 第三章 社會改良主義

#### (一) 概 言

社會改良主義は自由放任主義に賛成しないものであつて、資本主義社會組織の下に起つた様々の弊害を認め、これを何んとかしななければならぬと主張するものである。しかしこの主義の特徴は、自由放任主義に反対であるが、それと同時に社會主義にも反対である點に存する。即ち資本主義の弊害は認めるが、資本主義それ自身の根本改革は行はないで、資本主義組織の殻の中でその弊害を除いて行かうとするものである。この主義は協調主義とも呼ばれる。資本家と勞働者、地主と小作人有産階級と無産階級とが相互に理解し、協調して行くならば、資本主義の生んだ社會的害悪たる貧乏を緩和することが出来るといふのである。



社会改良主義にも種々の潮流があるが、大別して二つにすることが出来る。その一つは温情主義である。その二つは社会政策主義である。前者は保守的社會改良主義であり、後者は進歩的社會改良主義といふことが出来る。私は先づ温情主義から説くことにする。

### (二) 温情主義

温情主義は家族主義といつてもよい。資本家や地主は、労働者や小作人を我が子の如く愛撫し、それらの幸福を増進する施設を講じ、労働者や小作人も資本家や地主を我が親の如く敬ひ、それらの関係を圓滿にやつて行けば、階級間の衝突もなく双方が幸福になり、社会問題の解決も容易だといふのがこの主義の骨子である。これは封建時代に存在した主従関係の情誼を現代の生産関係に適用しやうとするものである。我國の有産階級の中にはこの主義を主張するものが随分多い。今その代表

的のものを挙げれば、大正八年の二月、當時我國に労働問題が急激に勃興してきたとき、時の政友会内閣の内務大臣床次竹次郎氏は、次の如き意見を發表した。

「日本には古來主従關係若くは温情的雇傭關係あるを以て、この美風を巧みに利用すれば、歐米の糟粕を嘗める必要なし。近年歐米にても識者間には從來の労働組合法に倣焉たるもの多く、現に英國にても組合法による組合よりもそれ以外の組合の数が漸次増加するの傾向を示して居る。故に日本にても資本家と労働者との對抗を意味するが如き規則を設けずとも、兩者の意志を疏通せしめ、圓滿に向上せしむるやうの方法を考究するをよしとす。益澤男爵の如きも始めは労働組合法制定を口にされたが、近來温情主義に賛成するに至れり。但し現在の状態に於ては、直ちにこの理想を遂行し難き故、資本家に今少しく労働者の立場を理解せしめ、彼等及び彼等の家族の救済教育等の方法を親切に研究せしめ、工場施設の上にも改善を加へしむるの要あり」云々。



温情主義を支持する人々の中には、この主義があたかも我國古來の特殊的美風であるかの如く考へて居るものが多い。所が豈に國らんや、温情主義者は外國にも少くない。イギリスのカーライル、フランスのル・プレーの如きその代表的主張者であつた。いづれの國を問はず、封建制度の存在した時代には必ず主從的温情主義はあつたのである。たゞ多國では早くに封建制度が没落したから、温情主義も早くに流行後れとなり、我國では封建制度の没落がおそかつたから、まだ昔の化物が今時未練がましくうついて居るのに過ぎない。温情主義を以て我國特有の傳統的美風だなどといふ人々の頭は、全く井戸の蛙と同じ獨斷に支配されて居る。従つてまた温情主義に反對する他の主義を以て、歐米の翻譯思想なりとすることも、最も固陋な意見といはざるを得ない。

この間三越百貨店に勞働爭議が起きた。三越の従業員の一部が待遇改善を要求したところ、従業員が團結して待遇改善を要求するなどは三越の家意に反するといつ

て、重役がそれらの従業員の重立つたものを解雇したのである。しからばその家意とは何んであるかといへば、家族主義だといふのである。若し眞に家族主義が三越六千人の従業員に徹底して居るならば、待遇改善の要求など起さなはずである。ところがこの間爭議を起した賣品配達乗務員の待遇條件を見ると、初任給一圓三十三錢、昇給率一年三錢、一圓五十錢の日給になるには七年かゝるわけだ。彼等の中には子供を抱えて居るものもある。そこで彼等がこんな劣悪な待遇條件に堪え切れないうで、初任給を一圓五十錢とし、現乗務員の日給を三十錢値上げすること、其他勤務時間中の傷害は公傷として傷害保證手當を支給すること等を會社に要求したのであるが、こんな劣等な生活状態に従業員を置き、しかも重役や株主は莫大な利益をせしめながら、三越の家意は家族主義だと公言して憚らないのである。子供が如何に飢えに泣いても、親は知らん顔をして旨いものを食べて居ることが、我國古來の美風であつたのであらうか。



現代社會に於ける有産階級と無産階級との間が温情主義で以て圓滿にやつて行けるかどうか、これを典型的な例として資本家と労働者との間柄に就いて考へて見る。いふまでもなく今日資本家の經營する事業は營利事業であつて、資本家は有らゆる手段を盡して利潤を擧げやうとする。そこで資本家が事業經營の最も必要な一手段として考へるのは、生産費の節約である。生産費節約の方法として第一に擧げられるのは、労働者の賃銀値下又は労働時間の延長などといふやうな労働條件を出来るだけ切りつめることにある。資本家の頭では、利を追ふに急なるため、また自分が資本家仲間の激しい競争場裡にあるため、労働者に人間らしい待遇を與へるなどといふことは到底考へては居られないのである。これが資本主義の特徴である。若し始めから労働者の人格的待遇を考へるやうであれば、恐らく資本家の事業は成り立たないであらう。

かくの如き資本家經濟機構の下にあつて、労働者はどうすれば生活の向上が出来るのであらうか。資本家の慈善心に訴へて待遇條件の改善が期し得られるであらうか、利巧な資本家は折々莫大な利益の中から鼻息ほどの金を振舞つて、大いに温情主義を發揮したつもりで居るが、そんなことで労働者の深刻な生活不安が緩和されるものではない。若し一人の労働者があつて、五人家族を抱えて居るのに僅か一日一圓五十錢の賃銀ではやりきれないから、重役を訪問して、事情を訴へて、どうか賃銀を一圓八十錢に値上げて貰ひたいと駄目したとする。必ず重役は冷やかに答へるであらう。君が一圓五十錢で不服ならば、僕の工場を去つて他の工場へ傭はれるがよい。一圓五十錢で働く労働者はいくらも求められるから、強いて君に居て貰ふ必要はないのだ。そこで労働者は失業しては甚だ困ることを考へて、背に腹はかへられぬといふ譯で、仕方なくどんな悪い條件でも屈從して、そのまゝ働くことになるのである。

現行法律は契約の自由を認める。そしてその契約は双方の自由意志に依らなければ



ば有効でないといふ。資本家と労働者との間に結ばれる労働契約は、現行法律から見れば有効な契約になつて居る。しかし事實からいへば、労働契約は双方の自由意志に依つたものではない。資本家には自由意志があるが、労働者には屈従のみがあるのだ。それは資本家は経済的権力者であり、労働者は経済的奴隷だからである。権力者と奴隷との間に契約の自由はない。たゞ資本家は自分勝手に労働條件を命令し、労働者はこれに屈従するだけのことである。そこで労働者はこの不利益極まる状態から脱却すべく、團結して團體的に資本家と労働契約を結ぼうとすることになる。それは必然にしてまた正當なる傾向である。こゝに労働組合運動が起るのである。地主に對して農民組合運動が起るのも、ほと同様の過程を踏んで起るのである。

温情主義は自由放任主義とちがつて、家族主義と稱する手前もあるから、労働者や農民に對して多少の恩惠的利益を施すのは事實である。しかしそれは實際に於い

て無産階級の生活安定にとつて何んの足しになるものではない。しかもそれは飽くまで有産階級の恩惠的行爲であつて、無産階級が自分の生活苦に立つてこれ要求がましいことをする筋合ひのものではない。温情主義を指導理論とする労働者農民の御用組合なるものは、時々資本家地主の慈善心によりその利益の中からおぼれを頂戴することはあるが、労働者農民が自らの意志によつて積極的に待遇を改善することは全く出来ないのである。御用組合は骨抜き奴隷的集團である。いかなる無産者的團體にしる、そしていかなる立派な綱領をかけるにしろ、それが温情主義を指導精神とする限り、無産階級解放運動の戦列外に立つものといはなければならぬ。

要するに温情主義は時代逆行の反動的恩惠主義である。家族的利益を中心とした封建的經濟組織の下に發生した主義を、資本家の利潤獲得を中心に動いて居る今日の經濟組織に當てはめやうとするものである。あたかも精銳な科學的武器を使用す



る現代の戦争に、燈兜を着込んで出掛けるやうなものである。有産階級は自己の  
贅澤な生活を續けるために、そして無産階級の不平を緩和するために、この優さし  
い時代後れの假面を冠つて無産階級を欺かうとするのである。實に温情主義は、無  
産階級をいつまでも奴隷の寢床に眠らせて置かうとする陰險なる子守歌である。

### (三) 社會政策主義

社會政策主義といつても、その中には事實上殆んど温情主義とかわりないものも  
あるが、社會政策主義の大勢は、温情主義を以て満足せず、温情主義が現代の時勢  
に適合せざることを認め、更に積極的に資本主義のもとに諸弊害を矯正しやうと  
するものである。即ち無産階級の生活を保護する色々な社會立法例へば工場法、積  
山法、小作法、社會保険法等の如きものを制定すると共に、一方に於いて労働者農  
民の自助的生活上運動である所の労働組合運動及び農民組合運動の必要をも認

めるものである。社會政策主義の中には、社會立法の如き國家の施設に重きを置く  
一派と、労働者の自助的活動即ち労働組合運動に重きを置く一派とがある。社會政策主義は進歩的なる社會改良主義であるから、明かに自由放任主義に反  
對して居る。彼れは現代の資本主義の弊害を以て無制限なる自由競争の結果だと見  
る。そして有産階級と無産階級との對立の事實も認める。そこで彼れは國家の権力  
と無産階級の自助的活動によりて、貧窮、不健康、犯罪等を除去去り、それと共に  
階級間の軋轢を防ぎ、社會の圓滿なる調和を期しやうとするのである。ところで社  
會政策主義の特色は、種々なる社會政策の實行はどこまでも私有財産制度を基礎と  
する資本主義經濟組織を維持する範圍内に於いて行ふことにある。即ちこの主義は  
資本主義肯定の上に立つて居る。それは資本主義の一特徴たる自由競争を或る程度  
に制限すると共に、資本主義社會に於いて必然的に起る階級闘争を緩和し、以つて  
善良なる資本主義社會を實現しやうとするものである。温情主義は現在我國の大多



数の資本家地主の探るところの主義であるが、社会政策主義は我國の進歩的官僚及び學者の間に多くの支持者を見出すことが出来る。我國に於ける社会政策主義の代表的團體は協同會であるが、彼れはその宣言に於いて自らの立場を次の如く述べて居る。

「協同主義は社会に於ける各階級特に勞資兩者が平等なる人格の基礎の上に立つて、自他の正當なる權利を尊重すると共に、社会の秩序のために、公正合理なる自制互譲をなし、以て相共に力を協せ、産業の發展、文化の進歩、國家社会の安寧福祉を最も有効に促進すべきことを主張するものである。責任の自覺は協同の出発點であり、正義と人道とは協同の基本でなければならぬ。然るに今日世に爾る温情主義には往々にして優者が劣者を懐柔するの意が浸染して居るやうに見える。斯くの如きは協同主義と遠く相距るものと云はねばならぬ。(中略)

協同主義は社会に闘争の跡を絶たしむることを空想するものではない。唯だ闘争に依るに非れば、到底勞務者の地位の向上を期し得べからずとする觀念、闘争のための闘争といふ主義、即ち現時の社会には協同の餘地なしとする絶望的思想は、本會の明かに否認する所である。(中略)

協同主義の精神は階級闘争を否認すると同時に、階級の調和融合を圖らんとするに在る。而してこれがためには一方に於て資本家の謙抑自省を促すと共に、他方に於て勞務者の地位の向上、福利の増進を圖ることが、今の時に於て最も緊切なる事項である。本會は此の目的を達するためには、最善の努力を吝さざると同時に、勞働者自ら同様の目的を以て勞働組合其他の團體を組織し、之を健全に發達普及せしむることを希望するものである(以下略)。

社会政策主義は自由放任主義及び温情主義よりは進歩した社会思想であつて、またそれらのものよりは現代の社会的害悪を良く理解するものであるが、しかし彼れは尙ほ資本主義の本質に對する理解が極めて不徹底なるを免れない。若し資本主義



社會組織が如何なるものであるか、そしてそれは如何なる發達を遂げて居るかを十分に理解するならば、資本主義社會制度の下に於いて資本家階級と勞働階級、地主階級と小作階級とが眞に平等なる人格の基礎の上に立つて、協調を保つて行く状態を望むが如きは、全く空想であることが分かるであらう。

資本主義組織の三大支柱は、資本私有主義と營利主義と自由競争主義とである。各資本家が營利的企業を起して激烈なる競争場裡に立つとき、如何なる結果を生ずるかといふに、大企業は漸次小企業を壓倒し併呑し、こゝに生産の集中といふ現象を生ずるに至る。大資本の上に立つ大規模の生産は、機械の使用と分業の利益により、經營上に於て優越的地位を占め、小企業は大企業のために利益を壟斷されることになつた。生産の集中は資本の集積を意味する。即ち有利なる大企業は少數の大資本家の手に獨占されることになり、經濟界は彼等少數の大資本家の専制支配下に置かれるやうになつた。それは自由競争主義の下にある資本主義經濟の必然的

發達の結果であつた。我國に於ても大企業の管理權が、三井三葉といふやうな少數財閥の手に集中されて居り、また現に集中されつゝあることは明白な事實である。農村に於ても大地主の耕地面積が増加し、小地主、自作農が没落し、貧農の數が増加しつゝあるは動かし難い事實である。

かくの如き生産の集中及び資本の集積は、當然に富の分配の不公平を生ぜざるを得ない。少數の有産階級と多數の無産階級との對立が現はれてくる。今、最近に於ける我國民の富の分配状態を見るに左の如くである。

一、有産階級

財産二十萬圓以上、所得年一萬以上

五七、六一九 戸

〇・四七 %

二、中産階級

財産二十萬圓以下一千圓以上、所得年一萬圓以下八百圓以上



一、八四一、〇〇一 戸

一四・九 %

三、無産階級

財産一千圓以下、所得年八百圓以下

一〇、四四五、六三七 戸

八四・六 %

右の表の中で年八百圓以上の所得者を中産階級に入れて居るのは當を得ない。現代の生活に於いて少くとも年千五百圓以下の所得者は無産階級に入れるのが當り前である。そうすると右の表の中産階級はその大部分は無産階級であり、従つて全國民の九割強は無産階級といふことになる。資本主義の母國たるイギリスではどうかといふに、労働黨のスノーデン氏は「英國の富の八十八パーセントは、國民の二・五パーセントしかない富豪によつて所有されて居る」と述べて居る。我國よりも資本主義が高度の發達を遂げた英國に於いては、我國よりも富の分配の不公平が甚しくなつて居る。かくの如く資本主義の發達は、極少數の財閥富豪と大多數の貧乏人

とを生んだ。しかししてこの大多數の貧乏人は類に汗して働く勤勞階級若くは働く意志はあつても職のない失業者であることを注意しなければならぬ。尙ほまたこの無産階級の生活苦は、單なる貧乏だけではなく、貧乏によつて生ずる疾病、犯罪、無教育等の種々なる社會惡を伴ふて居るのである。

資本主義經濟組織がその發達の結果として、有産無産の二階級の對立を生んだことは右に述べたが、更に私は資本主義制度の持つ特徴として著しい社會的弊害を生じつゝあるものゝ二三に就いて語らう。

資本主義制度の下にあつては資本家的企業は自由競争で行はれるから、その生産も勝手放題に行はれる。即ち生産は全體の需要状態を綿密に調査した上で計画的に統制的に行はるゝのではなくて、たゞ儲かるだらうといふ想像的豫測によつて行はるゝのであるから、生産行為は全く無統制な無政府状態といふことが出来る。その結果として市場に於ける商品の需要供給は齟齬を來たし、兩者の不一致は生産過剩





といふ現象を呈し、こゝに恐慌なるものが發生するのである。恐慌は週期的に來る經濟界の疾患であるが、それは資本家的企業の自由競争から生れる必然の現象であつて、換言すれば資本主義制度の本質につきまとい一つの特徴と見なければならぬ。恐慌が起れば産業は不振に陥り、事業の中止又は縮少が行はれ、無産階級は多大の犠牲を拂ふことになる。

次に失業といふ現象も資本主義制度の續く限り絶滅することの出來ないものである。現代に於いては勞働も一個の商品である。故に勞働市場に於ける需要と供給も商品市場に於ける需要供給と同じやうに無統制に行はれ、兩者の關係を計量的に調和して行くべき何等の方法も立たない譯である。勞働市場は一般經濟界の景氣によつて支配されるのであるが、その景氣は一定不變ではない。だから勞働市場に於ける需要供給の關係も常に變動して居るのであるが、現代の各資本主義國家に於ける勞働市場の状態を見るに、常に供給過剩であつて、失業は慢性的現象となつて居

る。勞働市場の景氣の良否によつて、失業が在つたり無かつたりするのではなくて失業が多かつたり少かつたりするだけのことである。まことに失業は無産階級を飢饉に直面せしむるばかりでなく、失業せざる一般無産階級の貸銀を低下せしむるところの憂ふべき社會現象であつて、社會政策主義者はこれを救済すべく失業保險制度や職業紹介機關等の完備を期して居るが、もとよりそうした社會施設も無きに優るものではあるけれども、根本的に見れば資本主義制度の續く限り、失業を絶滅することは不可能といふべきである。

次に資本主義最大の罪惡たる國際戰爭の發生に就いて語らねばならぬ。私はこれに就いて一つの典型的な例を引かう。その昔イギリスは世界の工場であつた。彼れはドイツ其他の諸國に對して紡績品を供給して居つた。しかし一定の時期を過ぎると、ドイツも紡績機械を据いつけて紡績品を製造し始めた。そしてドイツは自國の需要を満たすばかりでなく、他國へも供給し始めて、遂に世界市場に於いてイギリ



スと競争する地位に立つに至つた。しかし紡績品の商賣競争は、安い方が勝つて行くのであつて、それは國際間にあまり重大な紡績をかもすことはなかつた。

資本主義が更に發達すると、紡績品の競争から機械品の競争に移つて來た。即ち競争は輕工業から重工業へ進んで來た。こゝに重大なる問題がはらんでくる。一體重工業の製品は高價な資本を要する上に、その消耗の速度がゆるやかであり、従つて賣却にも時間を要する。そして賣先は大抵文明の程度の低い弱國である。だから製造國が未開國へ或る巨大な機械を賣るとすれば、その市場は固定化する。そして製造國はその機械を据つけて運轉が出来るやうにするために、技師や官吏を派遣する。それらの技師等は電線を架設したり、港灣を築造したり、鐵道を施設したりして、近代的施設の普及に努力する。こうなると製造國たる大資本主義國家は、自分の商品市場たる未開國に對して、自國の資本主義文明そのものを輸出するに至るのである。

或る未開國が或る強大國の商品市場となれば、強大國は更に多くの資本を投下してその國の産業を興し、その利益を收めやうとする。そうなると強大國は未開國に於ける自己の収益を確保するために、その國の政治的權力を握らねばならなくなつてくる。かくして最初は經濟的勢力範圍であつたものが、政治的勢力範圍に轉つてくる。そんな譯で未開國は強大國の領土となり、また保護領となる。こゝに帝國主義が姿を現はすのである。尙ほ帝國主義は、こうした經路を踏んで出現するばかりでなく、強大國が未開國を原料生産地として自己の完全なる支配下に置かうとするときにも、また出現するのである。

資本主義國家は發展して帝國主義國家となる。帝國主義は武力的侵略主義である。各帝國主義國家は各々強力なる軍備を背景に全世界の植民地に對して激烈なる競争戦を開始する。彼等の中の勝者は軍備の優越者でなければならぬ。そこに軍備の競争が始まる。歐洲大戰以前に於けるイギリスとドイツの血眼の建艦競争を見よ。



この兩國は帝國主義の二大チャンピオンであつた。かくの如き國際關係に於いて戦争が發生するのは必然的歸結と見なければならぬ。果然この二大チャンピオンの間に未曾有の戦争が捲き起つたのであつた。戦争が人類にとつて最大の不幸であり、特に無産階級にとつて最悪の犠牲であることはこゝに説くまでもない。然り、しかして戦争の母は資本主義である。

かく見てくるならば、現代無産階級の生活不安は、資本主義經濟組織そのものに根ざして居ることが分かる。資本主義は封建主義に比較して、驚くべき物質的生産力を發展せしめた。そして封建的階級制度を打破して、四民平等の民主主義を促進した。これらの點に於いて資本主義はたしかに社會進化の重要な歴史的役割を演じたのである。しかるに今や資本主義は高度に發達し、その歴史的使命も終り、その行程に行き詰りを生じた。それと同時に憂ふべき社會的弊害をかもしてきた。その社會的弊害といふのは即ち無産階級の生活難である、もはや資本主義社會は無

産階級にとつて「住み心地よき社會」ではないのである。若し無産階級が根本的に現代の生活難から脱却しやうとするならば、資本主義そのものを根本的に改革して次の新しい社會、社會主義社會の建設に進まねばならぬ。

社會政策主義は、資本主義を肯定する諸理論の中では、最も進歩的なものではあるが、資本主義の機構の内部に於いて無産階級の生活解放を圖らんとする所に、そしてその可能を信する所に、大なる認識の誤りがあるといはなければならぬ。考朽した建築物の住み心地をよくするがために、たゞ屋根を茅さかへたり、壁を塗るかへたりするだけでは十分な目的を達することは出来ぬ。やはり建築物そのものの改造を行はなければならぬ。かつては社會政策主義を奉じた社會運動が、今日に於いて、特に世界大戰以後に於いて、これに満足し得ずして漸次社會主義を奉ずるに至つたことは當然の傾向である。社會運動の指導理論としての社會政策主義は、正に破産の運命にあるといつて差支ない。



#### 第四章 社會主義の本質

社會主義といふ言葉は、これを廣い意味に解釋する場合と狭い意味に解釋する場合とで内容が違つてくる。これを廣い意味に解釋すれば、資本主義否定の思想といふことが出来る。尤も資本主義否定の思想の中には、復古主義も混入する譯であるが、この復古主義を除くところの、進歩的なる資本主義否定の思想を廣義の社會主義といふのである。社會主義には種々なる流派がある。宗教に種々なる宗派があるのと同様である。しかし社會主義と銘を打つからには、諸派の社會主義の間に共通なる原理がある。しからばその原理とはどんなものであらうか。

資本主義經濟組織の根本的特徴の一つは前にも述べたやうに營利生産主義である。これを商品生産主義といつてもよい。生産が直接社會の必要のために行はれるのではなくして、生産者が利潤を得るために商品を生産するのである。そしてこ



の營利生産主義は自由競争主義と結びついて居る。その結果が前に述べたやうに重大なる社會的弊害をかもしたのである。そこで社會主義は、營利生産主義を廢止して、公益生産主義を主張する。即ち商品を作る生産をやめて、直接社會の必要のために生産を行はふとするのである。そうすると個々の資本家の私的企業を廢して社會が自らの消費の必要のために自ら生産に従事することになる。この公益生産主義は一方に於て自由競争の廢止を意味する。資本主義制度下に於ける自由競争は、盲目的なる無政府主義的生産を生起し、その結果は生産過剰となり、恐慌となり、失業となる。社會主義は公益生産主義であつて、社會全體の利益のために需要供給の關係を計画的に統一的に組織化するものであるから、生産過剰も起らなくなり、資本主義特有の一大疾患たる恐慌を救治することが出来る。換言すれば社會主義は生産方面に於いて無政府主義を廢し、統一主義を以てせんとするものである。④

資本主義制度下に於いては、生産關係に營利主義が行はれると共に、交換關係

にも營利主義が行はれる。生産された物質は直接に消費者の手に渡らないで、中間に商賣人が居つて、物資の交換を營利的に司つて居る。こゝに商業資本主義が成り立つて居る。商業資本家の群には、問屋、仲買、卸賣商人、小賣商人といふ風に幾くつかの層があつて、それぞれ生産者と消費者との間に立つて中間搾取を行ふて居る。社會主義は生産方面の營利主義を排除すると共に、交換方面の營利主義をも除去せんとするものである。そして社會の直接の需要に應じて生産された物質を直接に消費者の手に配給せんとするものである。

生産方面及び交換方面に於いて、資本家的企業を廢止しやうとすれば、生産手段及び交換手段の私有を廢して、これを公有化しなければならぬ。換言すれば土地及び資本を公有にして、地代、利潤、利子等の不勞所得によつて生活する地主資本家の階級を無くさなければならぬ。そして國家が地主資本家に代つて、自ら公益のために生産を營み、生産物の配給を行はねばならぬ。既に現代の資本主義國家に於い



ても、不徹底ながら多少の資本公有は實行されて居る。鐵道、郵便、電信、水道等の諸事業を國家自ら經營して居るのは珍らしくない。最近我國に於いて電氣事業及び瓦斯事業の公營化運動が起つて居る。これらの事業は、民衆の生活必需品を生産配給する重要産業でありながら、資本家の營利的經營下にあるがために、消費者は不買料金を拂はされて居る。故に消費者殊に無産者の消費者階級がこれらの事業を適當なる買収手段によつて公有化せんとする運動を起すのは當然といはなければならぬ。

社會主義は資本の公有を主張するが、一初の資本を即時公有にしやうとするのではない。社會主義が完全なる發達を示せば、一切の資本の公有といふ状態が來るであらうが、現存我々の考へ得る初期の社會主義國家に於いては、先づ重要産業の資本を公有化することになる。即ち大資本の上に立つた大規模産業が社會主義化することになる。英國労働黨はその綱領に於いて、即時國有化すべきものとして、土地

鐵道、鑛山、電力を擧げて居る。何故に大規模産業を先づ國有化するかといへば、この種の産業に於いては資本家階級と労働階級との利害は完全に分離し、しかも労働階級は多数であるから、生産機關の利用方法は集團化し社會化して居る。生産機關の利用方法が社會化して居るに拘らず、生産機關の所有は少数資本家の手にあるのだから、その生産の利益は大部分資本家に獨占されることになる。そこに資本主義の矛盾があるのであるが、この矛盾が最も明瞭に現はれるのが大規模産業である。小規模産業に於いては資本家と労働者との分離が明かでなく、その生産方法も家族的であるから、資本主義の矛盾があまり現はれない。

更に考ふべきことは、大産業は社會主義化することによつて、その管理方法が社會の公益に合致し、生産力も増加する譯であるが、小産業は社會主義化するに適しない。若し強いて小産業までも直ちに公營化するならば、非常な繁雜な手續を要するばかりでなく、却つて生産力を阻害することになる。労働ロシアが革命以來執



つてまた戦時共産主義に行詰りを生じ、遂に一九二一年に至つて、重大なる方向轉換を行ふて、新経済政策を實施したのは、農民大衆を含むところの小企業者階級の資本家的企業を認めざるを得なくなつたからである。かくして勞農政府は生産力の發達を圖り、ロシアの經濟的危機を切り抜けたのであつた。故に資本の公有といつても、社會主義化に適するところの大産業の資本だけを公有化する譯である。

しかしこゝに注意すべきことは、産業を國營化するといつても、社會主義精神と相反することもある。資本家が自分の經營する或る産業が利益があまり擧らないから、その資本を國家に高價に賣りつける場合がある。かくの如きことは資本家的搾取を廢止するのではなくして、却つて産業國有の美名の下に國家が資本家に利益を與へるものである。近來我國の地主階級の中には土地國有運動をなすものもある。彼等は小作爭議に備まつられ、農業の利廻りも香ばしくなく、地價も低落する傾向にあるので、何んとか相當高い價格で土地を處分したいと思つて居る。しかし土地は

思ふやうには賣れない。そこで國家に泣きついて、相當の價格で土地を買上げて貰ひ、その代金で以て商工資本家の仲間入りをしやうといふのである。しかも彼等が表面の理由とする所は、土地國有主義によつて農村を救済し小作爭議を防止しやうといふのであるが、かくの如き公有主義は地主の巧妙なる土地賣逃げ政策であつて地主の不勞所得を廢止しやうとする社會主義の精神を遠く離れたものである。故に資本及び土地の公有は、あくまで國民の大多數を占むる無産大衆の利益を中心にして、從つて有産階級の特權剝奪の立場に立つて行はなければならない。

社會主義といへば直ちに私有財産制度の廢止が思ひ起されるのであるが、社會主義と私有財産制度との關係に就いて、往々世間では誤解して居るものもあるから、この點に就いて一言述べて置く必要がある。社會主義は土地及び資本の公有を意味することは前に述べた所であるが、これは換言すれば生産手段及び交換手段の公有化である。そしてそれは大規模經營のものだけが先づ公有化されるのである。故に



私有財産の中でも、小企業の資本は公有化されない。更にまた生産し配給された後消費者の手に入つた財産は公有化されない。例へば衣服、靴、炊事道具のやうなものには公有化されるはずはない。故にこうした使用又は消費されるべき財産に対しては私有財産制度が認められる譯である。社会主義者は何んでも共産にするやうに考へる人があるが、それは大きな誤解である。

それと同時に使用又は消費的財産の中でも私有を許されないものである。今日に於いても例へば博物館、公園、道路の如きものは公有になつて居る。社会主義社会に於いては斯くの如き公有物は著しく増加して、民衆の自由な使用又は享樂に委ねられるであらう。しかしこの種の公有物の中でも、無料で使用することを許されるものと、一定の使用料を徴収されるものがあるであらう。例へば住宅の如きは凡べて公有化されるに相異なるが、各人は一定の使用料を収めてこれに住居することになるであらう。そうすると社会主義社会に於いても私有財産制度は或る程度に

維持されることになる。次に財産の分類を示して見やう。

- (一) 大企業の資本は公有化される。
- (二) 小企業の資本は私有を認められる。
- (三) 民衆が集團的に使用する財産例へば公園や劇場の如きものは公有化される
- (四) 民衆が個人的又は家族的に使用する財産の中で重要なもの例へば住宅の如きものは公有化される。
- (五) 民衆が個人的又は家族的に使用する財産の中で性質上公有化され得ないもの、例へば衣服の如きものは私有を認められる。

右に述べた通りに社会主義社会に於いても或る程度の私有財産は認められるのであるが、しかし社会主義組織の發達につれて、私有財産が漸次に減少するであらう



ことはたしかである。例へば小企業は漸次に大企業に組織化されて行くであらう。また使用財産にしても、公衆的食堂の設備が完成するやうになれば、私有財産としての炊事道具の如きものは次第に要らなくなるであらう。

次に社会主義と産業民主主義との關係に就いて語らねばならぬ。産業民主主義とは民衆が民衆の爲に産業を管理することである。産業民主主義の反對は産業専制主義である。資本主義は資本家的産業専制主義である。産業管理に關して資本家以外の勤勞大衆は何等の發言を許されない。資本家は利潤獲得のために獨裁的に産業を管理し、一般従業員を自己の意志のままに機械の如く使ふのみである。社会主義は資本を公有にして、資本家の存在を無くするばかりでなく、産業を民主的に管理しやうとする。即ち産業民主主義に立脚しやうとするのである。今日の我國の官業の如きは、資本の公有化方法が資本家であるばかりでなく、その管理方法も全く官僚的である。だから斯くの如き産業は國營であつても、それは國家資本主義的といふべきであつて、決して社会主義的とは云はれない。民主主義のないところに社会主義はなす。

社会主義經濟に於いては、土地及び資本が公有化されそれと共に産業の管理方法も民主化されることは前に述べた通りであるが、次に起るべき問題は、富の分配方法を如何にするかといふことである。私は社会主義的分配方法として次の四方法を擧げることが出来ると思ふ。

第一、各人の必要に應じて富を消費せしむることである。各人の能力に應じて働き、各人の必要に應じて消費することとは、社会主義の理應とする所であつて、この方法は現代に於いても家庭の中では行はれて居る。家庭にあつては、老人や小供は働かなくとも必要に應じて富の分配に與つて居る。しかし一家族のやうな組織に於いてはこの方法は行はれ得るけれども、社会全體に對してこの方法を行ふことは我々の豫想する範圍内で、多くの困難を伴ふものであらう。理想の原則としては正



しいが、社會全體に對して行ふ方法としては、なか／＼容易ではないと思はれる。

第二、各人の技能に應じて富を分配することである。もとより社會主義社會であるから、技能なきものにも相當の生活保障を與へることは勿論であるし、また技能の優劣に對しても甚しき差等を設けることは不可である。一定の合理的標準の下に技能に應じて富の分配を決定することが、勞働を刺激することにもなつて、極めて妥當な方法だといふ譯である。この方法も合理的なところはあつたが、その技能の優劣を決定することに多少の困難があり、また分配方法の標準を技能の優劣のみに置くことは、各人の必要の程度に置くことに比較して社會主義精神として不徹底なところがある。

第三、各人の必要の程度、技能の程度といふことを無視して、すべて各人平等に富を分配する方法である。この方法は頗る公正ではあるけれども、聊か機械的であつて、實際の狀態に適合しないものがある。例へば一國の總理大臣と赤兒とに對し

て平等に富を分配することは餘りに機械的である。

第四、各人に對し平等なる一定の生活安定の保障を與へ、その上で各人の必要並に技能に應じて多少の差別的分配をする方法である。將來に來らんとする社會主義社會に於いて、我々の想像し得る所の最も妥當な分配方法はこれであると考へる。先づ各人に平等なる生活安定の基礎を與へることが肝要である。その上で多少の差等を設けるのは已むを得ない。尤も社會主義が完成するにつれて、公有財産は増加し、私有財産が減少して行くから、その差等的分配も漸次薄らいでは行くと思はれる。富の分配方法も、社會主義社會の初期時代と發達時代とによつて變化して行くであらう。

社會主義社會といつても、種々なる發達階段があるのであつて、資本主義社會を打倒しきへすれば、一足飛びに理想的な社會主義社會が生れる譯のものではない。そんな考へ方はロマンチックな空想であつて、社會の進化といふものが、そんなに



手つ取り早く運ぶものではない。例へば今日社会主義共和国といふ看板をにかけて居るロシアにした所が、決して理想的な社会主義国家ではない、實際のところロシアはまだ社会主義国家には至らないで、国家資本主義国家である。否、完全なる国家資本主義国家にはなり初らないで、資本主義から国家資本主義へ至る過渡時代にあるといつた方が當つて居る。このことは勞農ロシアの建設者たるレーニンが正直に認めて居る。社会革命を行へば、直ちに地上の樂園のやうな理想社会が生れると思ふのは、飛んでもない思想である。

社会主義は資本主義が高度の發達を遂げた後に到來することが、正常なる進化の過程である。ところがロシアに於いては變則的過程を踏んで、資本主義が高度の發達を遂げる以前に共産黨の革命によつて所謂勞働ロシアが生れた。しかし共産黨の政治革命は成功しても、社会主義社会を建設すべき經濟條件が備つて居ない。現在ロシアには小ブルジョアの農民が最も多數を占めて居る。即ちロシアの經濟機構に

於いて最も優勢を占めて居るのは小規模の資本主義である。かくの如き状態から社会主義に達するには、どうしても国家資本主義を通過しなければならぬ。その国家資本主義へ至る實行方法は、小規模の資本主義の群を國家的に統一し整理して、生産及び分配の國家的計算と國家的管理の制度を樹立することである。国家資本主義は社会主義の玄關である。ロシアの經濟機構はまだこの玄關にも達しないで、これに向つて急ぎつゝある状態である。つまりロシアはまだ眞の社会主義の國家にあらずして、これに向ふ進行の途上にあるのである。まことに社会主義社会は、突然に生れるものではなくて、一定の物質的條件及び無産階級の意識的條件の成熟を俟つて始めて生れるものである。

社会主義は無産階級をその生活苦惱から解放せんとするものであつて、従つて全人類の經濟的解放を期せんとするものである。この意味に於いて社会主義は經濟的自由平等主義といふことが出来る。しかし經濟的自由平等それ自身が社会主義の目



的ではなくて、それは人格的自由平等を實現するための基礎條件となるものである。故に社會主義はその方法に於いて物質主義であるが、その目的に於いて人格主義である。物質主義を離れた人格主義は愚ろかなる精神主義である。社會主義は物質主義を最も重視したる人格主義である。かつて封建制度を打倒した自由平等の旗は、資本家地主階級のみを經濟的及び人格的自由を確立した。そして大多數の無産階級は生活難の淵に陥つた。今や無産階級は自らの自由平等の旗を翻して、資本主義の牙城へ肉迫しつゝある。その旗は社會主義の旗である。社會主義や無産階級に經濟的自由平等を與へると共に、彼等を人格的自由平等の世界へ送り込むものである。

## 第五章 社會主義の諸潮流

社會主義は資本主義を否定する思想であることは前に述べた。元來社會主義といふ言葉はどうして生れたかといふに、その語源に就いては英佛の思想家間に論争があるが、一八二七年十一月英國ロンドンの協同組合の機關誌に現はれたのが最初のものやうである。フランスでは一八三二年二月サン・シモン學徒のビエール・ローが同派の機關紙グロブ紙上に用ひたのが最初である。ところでイギリスで使はれた社會主義の言葉は、資本主義に反對して土地及び資本を公有化する經濟思想を意味し、フランスで使はれたものは、各個人よりも團體を重んずるといふ社會學的思想を意味したのである。若しフランスで最初使はれた意味で社會主義といふ言葉を用いるならば、その範圍があまりに狭とするなら、我々はイギリスで最初用いた意味に於て社會主義といふものを理解して行くことが思想研究上妥當と思はれ



る。尤も社会主義に類似するところの経済的平等主義又は社会的平等主義といったやうな社会思想は、既に遠い昔の古代ギリシャ、古代イスラエル、古代支那から中世に至るまで数多く存在して居るのであるが、我々が嚴密な意味に社ける社会主義を研究するときは、これをそうした資本主義以前の社会思想とは區別して置く必要がある。私が社会主義の諸潮流に就いて述べるにも、そうした態度をとるのである。社会主義には種々なる潮流があつて、それらのものが相互に對立し抗争してきた。また現に抗争しつゝある。この對立抗争も時代によつて變化して居る。かつては共產主義と無政府主義との間に激しい抗争が行はれたが、現代では共產主義と社会民主主義との間に抗争が行はれつゝある。ところでこゝに注意すべきことは、社会運動の指導理論に關する抗争は純然たる學說的理論闘争ではなくて、當面の問題を中心として行はれることである。かつて我國社会運動に於いて無政府主義者とその反對者との間に激烈な抗争があつたが、それは社会運動の闘争形態を集中主義にする

か自由聯合主義にするかといふ問題を焦點にして行はれたのであつた。この問題は當時の勞働運動に於いて最も重要な問題であつて。しかし無政府主義者の中には革命的サンヂカリストもあれば人道主義的無政府主義者もあつて、決して學説上の見解がすべて一致して居る譯ではなかつた。無政府主義反對派の方は更に雜然として居つて、共產主義者もあれば勞働組合主義者もあれば社会民主主義者もあるといつた具合であつた。故にその當時に於いても學說的に見渡せば、さまざまの分類が出来たけれど、當時に於ける社会運動の指導理論としては二大分派に對立したのであつた。

現代の社会運動戦線は大體に於いて共產主義陣營と社会民主主義陣營との二大潮流に分れて居るが、後者の内部を學說的に檢査するならば、必しも一致せざる諸要素が存在して居ることが分かる。例へばウエツプの思想とカウツキーの思想とベルンシュタインの思想とは學說的には一致しないが、同じく社会民主主義の陣營内に



合流して居る。なせかといふに、現代の社會運動の指導理論として最大の問題は、資本主義を變革する方法として獨裁主義を取るか若くは民主主義を取るかといふことであつて、この二大問題に對する見解の相異を分水嶺として、多少の學說的相異は減殺されて、社會主義者は獨裁主義と民主主義派との二大分派に對立することになつたのである。かつてはカウツキーの思想とペルンシュタインの思想とウエツプの思想とは、指導理論として對立したこともあるが、今日では指導理論として一つの潮流に合流して居るといへる。なせかくの如く變化してきたかといふに、それは社會運動の實踐に依るのである。實踐のみが理論の價値を決定する唯一の審判者である。實踐といつても、部分的な特殊的な實踐を前提として演繹された理論は、社會科學として價値の乏しいものである。出来る限り廣汎なそして多様な實踐を歸納するものが、それだけ理論的價値を増すものといはなければならぬ。

學說理論は思想の全部的構成である。だからそれは一切の社會的認識を科學的に

體系化したものである。しかるに指導理論は社會運動を指導する運動理論である。それは社會運動の個々の實踐過程から生れた經驗意識の組織的構成である。しかし指導理論と學說理論とは全然別物ではない。指導理論も發達につれて科學的體系化され、その學問的完成を示すに至るであらうことはたしかである。しかしながら指導理論は學說理論の如く或る固定したる全部的思想體系ではなく、實踐によつて不斷に成長的進化を遂げつゝある理論である。故にそれは未完成なる科學である。それは問題になるものだけを問題にして、それに対する認識を組織化しつゝ進むのである。これに反して學說理論は、問題になるとならざるとを問はず、一切の社會的認識を歸納的又は演繹的に綜合し、これを體系化しなければならぬ。例へば「國家」の問題に就いて見る。學說理論からいへば「國家」を支配階級の搾取機關と見るか又は人類の共同生活に必要な統制機關と見るかを學問的に判断しなければならぬ。しかるに指導理論からいへば、現下の社會運動の發達過程に於いて國家が消滅



するものなりや否やを決定するの必要に迫られて居ない。それはもつと後廻しに  
していい問題である。故に今日、國家に關する理論闘争がありとすれば、それは學  
說的理論闘争であつて、社會運動の指導理論家の理論闘争ではない。

社會運動は集團運動である。指導理論は個人的學說とちがつて、集團運動の方向  
を決定して行く理論である。そしてそれは當面に於いて問題になるものだけを問題  
にして、これに正確なる認識を下しつゝ進んで行く實踐理論である。故に我々は、  
今社會運動が發達の途上にあるとき、急いで指導理論を或る完成された科學的構成  
にまとめ上げてしまふ必要はないのである。そうすることは指導理論を固定化する  
ことになり、その結果は或る窮屈な觀念を以て實踐を強制するやうな失態を演ずる  
ことになる。こゝに所謂公式主義者の破産がある。だから指導理論は科學的要素を  
持たなければならぬものであるが、我々はこれを未來への發展性を有する所の未  
完成の科學として取り扱ふことが最も妥當であると考へる。

私は社會主義の諸潮流に就いて語らうとするが、私は各潮流の全構成を紹介しや  
うとするのではない。社會運動の指導理論としての價值判斷を中心として、これら  
のものを要約的に説明しやうと思ふのである。



## (一) 唯心的社會主義

社會主義の歴史に於いて、マルクス及びエンゲルスは社會主義を空想的から科學的に轉換せしめたといふことになつて居る。しからは、こゝでは空想的社會主義とはどんなものかといふに、この派の人々は、社會主義を以て絶對の眞理と正義との表現であると考へ、そしてこれらのものを發見し、且つこれらのものの力によつて全世界を征服し、理想社會を建設することを主張するのである。彼等は資本主義社會の不正と不合理とを痛感し、これを根本的に改革して、眞理と正義の支配する新社會を建設しやうとする點に於て、美しい人類愛に燃えた人道主義者である。だから資本主義社會の弊害を批判する場合に於いて、彼等の認識は正しいのであるが、しかししからは如何にして資本主義社會を根本的に改革し、しかして理想の新社會を建設すべきかといふ實行方法に於いて、彼等の認識は不十分であつた。そこが空

想的といはれる點である。

空想的社會主義派の中で有名なものは、イギリスのロバート・オーエン、フランスのサン・シモン、フーリエ等であるが、こゝに一例としてフーリエの社會改造案を紹介して見やう。彼れは幼少のときから不正を惡む正義感の鋭い人であつて、當時の商業制度が他人を欺いて暴利を貪ることを甚しく卑んだ。彼れが五才のとき、自分の父の店で、顧客に商品の本當の品質と値段とを告げたので、父から叱られたことがあつた。彼れは長じて益々資本主義經濟組織の不合理を實感し、どうしても善良なる新社會組織を作つて、資本主義社會に代へなければならぬと考へた。彼の新社會組織案はこうである。一國を幾つかの小部分に分割して、一定數の人々を有するフワランジュといふ各單位を形成する。フワランジュは四百の家族から成り、その人數は約千八百人であつて、これらのものが一平方リーグの土地に於いて自給自足の生活を營む。勞働は各人を適材適所に置き、人々はフワランジュといふ



共同住宅に住む。生産物の分配方法は、その共同生産物から各人が相當なる生活をするに必要なる最小限度を分配され、その残餘のものは、その十二分の五を勞働に十二分の四を資本に、十二分の三を才能に與へる。官吏はすべて一般選舉によつて決定する。フリーエは、かくの如きフラワンジュ制度を全世界に擴大して行つて、資本主義を征服し、同時に理想世界を作らうと考へたのである。

彼等の指導理論の最も著しい特徴は、その「唯心的」なる考へ方にある。彼等の資本主義社會に代るべき新社會の美しい模型を勝手に頭の中で作り上げて、これを萬人の良心に訴へて行けば、萬人はこれに賛成して理想が實現すると思つたのである。即ち彼等の實行方法の唯一の道は、「真理」を宣傳するにある。ロバート・オーエンは、一八一八年歐洲大陸に旅行して、各國の有力な政治家に面會して自分の主義を宣傳し、また各國の主權者に宛て、宣傳的な覺書を發表した。ロシアのアレキサンダー一世に對しては、手づから覺書を奉呈しやうと試みた。彼はいふ「專制

諸國の大臣諸公と會見して、自分の一樣に感じたことは、彼等が理論に於いては新社會制度を實地にもたらすことに好感を持つて居り、且つ彼等はその地位の許す限り有らゆる便宜と助力とを私に與へたといふことである」と。社會主義の制度の實現を、資本主義國家の各大臣を訪問して宣傳するが如きは、現代の我々から見れば随分御目出たい話ではあるが、しかし當時の社會主義者等にとつては、それが極めて眞面目な話であつた。彼等は自分等の發見した真理を實現すべく、燃ゆるやうな熱情を以つて各人に宣傳したのである。彼等は各人が特に支配階級が真理を自覺し翻然と反省して、その真理を實行して呉れさへすれば、この世界は極めて平和的に美しい新社會に代るであらうと信じたのである。故に彼等は社會主義者であると同時に唯心主義者であるといふことが出来る。

普通彼等は空想的社會主義者と呼ばれて居るが、事實空想的なる社會主義の中に多種なる潮流があるから、彼等のみを空想的社會主義といふのは名稱が廣きに失



する。彼等の主義が空想的であることは明かだが、彼等の特徴は唯心的なるが故に空想的なのであるから、むしろ唯心的社会主義といふことが當つて居る。この唯心的社会主義は、實際運動に於いて悉く失敗した。その原因は、第一、彼等の理想とする新社会が頭の中で観念的にユトーピアを描き出したものであつて、資本主義經濟組織の發達過程に即しないものだからである。第二、實行方法が唯だ眞理を普及宣傳するといふ純然たる精神運動にとゞまつたからである。一言にしていへば、この社会主義の特徴が唯心主義にあると共に、その失敗の原因も亦唯心主義にあるのである。

唯心的社会主義の列に加はるべきものに基督教社会主義がある。これは基督教主義と社会主義と結合したものであつて「神の國」を以つて社会主義國家となすものである。イギリスのルドロー、モウリス、キングスレー、ドイツのケトラー、マウフアング（舊教）、シユナーケル、トッド（新教）の如きはこの派の錚々たる代表者

七〇

である。基督教によれば、人類は相愛すべき同胞生活を營むべきであるのに、現代のやうに資本家階級と労働階級とが對抗して相争ふのは間違つて居る。自由競争の原則の如きは愛の法則を否定するものであり、全く神の意志に反するものであるから、資本主義社会組織を改造して、同胞主義を實現する理想社会を建設しなければならぬといふのである。そしてその實行方法は、マルクス主義の唯物的手段に反對し、各人の精神を善化して行けば、おのづから社会改造の實は擧がるものと主張する。彼等も亦唯心主義者である。だから資本家と労働者とが現實に抗争して居る場合、基督教社会主義はこれに對して何の力も持たないのである。たゞ神の意志に反する仕業として嘆息を發するより仕方はない。従つて社会運動の推進力としては、唯心的社会主義は殆んど無力に近いものといはなければならぬ。

我國に於いて、明治三十年代の社会主義者の中には、基督教社会主義者が少くなつた。片山潜氏の如きも始めは東京神田區にキングスレー館を經營してこの主義の



宣傳に従事したのであつた。また武者小路實篤氏を中心にする例の「新しい村」の運動の如きも、唯心的社會主義と見るものである。唯心的社會主義の運動が、社會運動の微弱なる一傍流に過ぎないものであることは、世界各國とも共通の現象である。

## (二) マルクス主義

私はここでマルクス主義の全構成に亘つて詳細に説明しやうとするのではない。たゞ社會運動の指導理論に於けるマルクス主義の位置に就いて語らうとするのである。世間にはマルクス主義者と稱する人々があつて、マルクスの言葉の片言隻句を神聖視し、これを永久不變の真理である、かのやうに信仰して居るものがあるが、實際に社會運動をやつて居るものから見れば、それは實に愚劣も甚しいといはざるを得ない。マルクスが社會主義の歴史に於いて最も輝かしい理論家の地位を占めて居ること、彼の理論が現代の社會運動に重大なる影響を與へたこと等は間違ひないが、彼れが神様でない限り、彼の發見した法則が永久に完全無缺なものであらうはずがない。彼れは一八一八年に生れて、一八八三年に死んだのであるから、彼れは十九世紀の人である。我々は二十世紀の社會運動者である。マルクスの文獻に



よると、彼れは十九世紀時代に資本主義が崩壊するものと考へて居た。だから資本主義が二十世紀に入つて更に大なる發展をしたこと、その發展の内容、これに對抗する社會運動の發達等に就いて、彼れに完全なる見透しがつかなかつたことは當然である。我々二十世紀の社會運動者は、マルクスの豫想し得なかつた多くの社會事實、多くの社會運動經驗を實現して居る。故に我々は、マルクスの理論の中で現代の社會運動が實踐によつて正しいとするものだけを汲み取り、しからざるものはこれを斥けて行く権利がある。別にマルクスを偶像視しなければならぬ義理は我々には毛頭ないはずである。マルクス主義者と稱して、無條件にマルクスの前に拜跪するが如きは、一種の學者的なる偏執趣味であつて、現代の社會運動者は斷じてかかる愚劣な真似をすべきではない。

マルクス主義の理論構成の中で、我々の最も注目すべきものは、階級闘争による資本主義崩壊の理論である。もつと詳しくいへば、資本家階級は労働階級を搾取す

るものであるから、利害の不一致から兩者の間に階級闘争が起り、それが發展して遂に資本主義が崩壊して社會主義社會が生れるといふ理論である。彼れは資本主義經濟組織を解剖して、その生産が商品生産であるとした。しからばその商品の價值は如何に決定されるかといふに、その商品を生産するために社會的に必要なる労働時間によつて決定されるといふのである。所で労働力も一個の商品である。だから商品としての労働力の價值を決定するものも、やはりこれを生産するために社會的に必要なる労働時間である。労働力の生産に必要な労働量とは、労働者自身及びその家族の生活に必要な資料を生産するために必要なる労働量のことである。今或る労働者及びその家族の生活資料を生産するために五時間の労働を要するとするその労働者が資本家に雇はれて、五時間だけ労働したとすれば、一方に消費しただけの價值が、他方に作り出さるのであるから、そこに何等の價值の増減は起らない譯である。しかるに労働力の價值は五時間労働に相當するのに、資本家が労働者



を九時間働かしたとすれば、こゝに四時間の労働によつて新らたなる価値が生ずる。これが剰余価値と呼ばれるものであつて、資本家の資本に對する利潤となるものである。剰余価値は賃銀の支拂はれざる労働であり、資本家が労働者を搾取する価値であるといふのである。

資本家の企業の目的は、剰余価値を獲得するにある。しかして資本家の企業は他の資本家との競争關係に立つて居る。それがために資本家は極力生産費の低減に努める。生産費低減を圖るために、資本家は労働條件を低下し、また進歩した機械を採用して労働者を整理する方法をとる。一方資本家は搾取した利潤を再び資本に投下し、かくして資本家は資本の大部分を機械原料等の生産用具に投じ、賃銀として労働者に支出する部分は相對的に減少してくる。換言すれば機械が人間を不要にする。かくて資本が益々蓄積せらるゝのに對して、労働者は益々失業者を出すことになる。この失業者群は産業豫備軍といつて、その存在は就業労働者の労働條件を

低下する作用をなすものである。かうした状態にあつて労働階級の生活は益々不安になる。

更に資本家間の激烈なる競争の結果は、大企業が優勝して中小企業が没落する。こゝに資本の集中が行はれ、資本家は少數の財閥富豪の手に收められ、それに伴ふて無産階級の数は益々増加する。また一方に於いて商品生産の自由競争は週期的に生産過剰を起し、恐慌を生ずる。恐慌は中小企業の没落を促進する。かくの如くして有産階級と無産階級との間に對立を生じ、兩者は必然的に階級闘争を起し、無産階級は資本主義の基礎である資本の私有に對して挑戦することになる。そして階級闘争の發達の結果は、資本主義經濟組織の崩壊となる。マルクスの言葉を借りていへば「資本家の私有制の臨終の鐘が鳴る。掠奪者は掠奪される」のである。マルクスは唯心的社會主義者のやうに資本主義社會制度を唯だ罪惡だと非難することをしないで、資本主義經濟組織の内幕を科學的に解剖して、剰余価値の秘密を



暴露した。そして資本家階級と労働階級との間に必然的に起つてくる階級闘争の法則を発見し、更にこれによつて資本主義崩壊の理論を組立てた。マルクス主義によれば、資本主義の崩壊は、天才的頭脳から偶然に考案されたユトーピアを萬人に宣傳し、萬人の良心的反省によつてそれが生じてくるものではなくして、資本主義社會に歴史的に發生した二つの階級、有産階級と無産階級との闘争の必然的結果として發生するものである。唯心的社會主義の「唯心的」なるに反して、マルクス主義はたしかに「唯物的」である。我々は現代の社會運動の實踐に徹して、唯心的社會主義よりも唯物的社會主義の方が事實に適合して居ることを認めざるを得ない。労働争議、小作争議、電気及瓦斯争議、有産政黨と無産政黨との闘争等は明かに階級闘争である。そして有産階級の餘利價值搾取に對する抗議であり、且つまた資本主義改革を目的意識とする社會主義運動である。これらのマルクスの理論は、これを嚴密に検討するならば、多少の誤謬はあるであらうが、その根本原則に於いて動か

し難い真理があると云はねばならぬ。

その他のマルクスの理論に於いては、我々は實踐に徹し確信を以つて全部を肯定することは出来ぬ。マルクス主義は一個の偉大なる思想的建築であるが、その中には相矛盾するやうな理論の流れもあり、また明確を缺くところもあり、更にその認識に於いて明かに誤つたものもある。マルクスはその著「ブルジョア革命とプロレタリア革命」といふやうな言葉を使つて居る。たしかにブルジョア革命は十八世紀に起きた。しかし十九世紀にはプロレタリア革命は起きなかつた。それどころではない。十九世紀は資本主義は大發展を遂げた時代であつた。漸く二十世紀になつてから、ロシアに共産黨革命が起きたけれども、それも社會主義的といふよりは國家資本主義的の革命といふ方が妥當である。マルクスが有名な共産黨宣言を書いたのは一八



四〇年であるが、彼れは當時のドイツの労働階級の状態が段々悪化して行つて、近い将来に社会革命が起ると信じた。しかし彼れの認識は明かに間違つて居つた。ただ當時のドイツには社会主義革命の條件が備つて居なかつたのである。革命の到来を非常に近いやうに考へるのは、革命家特有の意識であるが、マルタスの理論にもこの空想的意識が相當に混入して居る。

前に述べたやうに、共産黨宣言其他の文献に於いて、マルタスはまだ資本主義が發達を遂げざるに拘らず、革命の到来を豫想して居るが、しかしマルタスの社会進化の理論は、決してそんな飛躍的なものではない。彼れは「經濟學批判」の序文中でこう述べて居る。「一つの社会構成は、そこに發展する餘地あるすべての生産力が發展して居ないうちは、決して破滅することではなく、また新しい一層高級な生産關係は、それにとつての物質的生產條件が舊社会それ自體の胎内に孕まれないうちに決して出現することはない。されば人類はいつも自分で解決し得る問題のみを

提起する」。マルタスによれば、社会構成の基礎は經濟構造である。經濟構造は生産力の發展によつて必然的に變化する。従つて社会構成も必然的に變化する。生産力は新しい生産方法によつて發展する。そこで生産方法の變化が社会關係を變化せしめるのである。「手磨臼は封建諸侯を有する社会を生じ、蒸汽製粉機は工業資本家を有する社会を生ずるのである。そうすると或る社会構成は、その基礎に動くところの生産方法が高度に發達し、従つて生産力が高度に發展して、次の新しい生産關係に入る準備が出来あがつたときに於いて、即ち胎兒が母胎内に十分に成育したときに於て、始めて革命を起すのである。換言すれば資本主義が高度に發達することによつて必然的に資本主義が崩壊するのである。」

マルタスは一方に於いて資本主義の成熟による革命を説きながら、他方に於いてその未熟状態に拘らず革命を説いて居る。だからゾンバルトの如きはマルタスは二重人格の所有者だといつて居る。たしかにマルタス主義の中にはさうした矛盾した



流れがある。しかし我々は革命的情熱に昂憤した飛躍的なマルクスよりも、社会進化の法則を冷静に究明した科学的なマルクスに學ばねばならぬ。

次に社会主義運動の實行方法に就いて、マルクス主義は必しも一貫して居ない共産黨宣言其他に於いてマルクスは頻りに暴力主義を説いて居るが、十九世紀後半の政治的民主主義の發達は彼れの思想に影響を與へて、彼れをして幾分民主主義的方法に傾かしめた事實がある。彼れの晩年一八七二年、オランダのヘノグでの演説に於て「労働者が労働の新組織を作らうとするがためには、いつかは政權を獲得しなければならぬ。しかし我々は目的に達する手段がいつでも同じだとは主張しない我々は各國の制度、風俗、習慣等はこれを考慮すべきことを知つて居る。しかし英米の如き國家に於いては、オランダもこれに加つていざだらうが、労働者は平和的手段によつて目的を達するであらう。しかしすべての國家がさういふわけではない」と述べて居る。して見るとマルクスは晩年に於いて、政治的民主主義の發達し

た國家に於いては、社会運動が民主主義的方法をとる可能性があり、しからざる國家にては暴力主義的方法をとるであらうと豫見したといふことが出来る。マルクス主義建設の協力者であるエンゲルスは、マルクスよりも一層強く民主主義手段を高調して居る。彼れはいふ「民主主義の發達した國家に於いては、暴力革命が必要でないばかりでなく、市街戦の革命などは今日に於いては時代後れである。今日の労働者は普通選舉權を與へられて居るのだから、これを利用して政治上の地位を占むればよい。これドイツの労働者の最も力を注ぐべきところである」と。

マルクスは民主主義の價値を部分的に認め、エンゲルスは全部的にこれを認めて居る。現代のレーニン主義は大部分これを否定して居る。しかしながら現代社会運動の實踐に徴するに、民主主義の價値に對する認識に於いて、マルクス主義はレーニン主義よりも弾力性を有し、且つまた多くの客觀的妥當性を有するといはなければ



八四  
ばならぬ。しかしマルクスのこの弾力的な見解が、後に至つて社会主義運動に大なる分裂を生ずる一因を成したことを注意しなければならぬ。

### (三) 修正マルクス主義

マルクス主義を最も忠實に遵奉した無産政黨はドイツの社会民主黨であつた。同黨が非マルクス主義的な理論的要素を一切清算して、正統マルクス主義の綱領を採用したのが、一八九一年のエルフルト綱領である。その起草者はカウツキーであつて、ベルンシュタインもこれを補助した。當時社会民主黨の理論家の多くは、マルクスやエンゲルスの理論を絶対に支持した結果、彼等の一言一句の解釋に骨を折り萬事マルクス、エンゲルスの理論に背かざらんことに努めた。しかし斯くの如き宗派的傾向に對して反動が起り、マルクス主義をもつと批判的態度を以つて取り扱つてもよいではないかといふ意見が唱へられてきた。これがために黨内に於いて一大紛議を生じたが、その理論的代表者はベルンシュタインであつて、彼れの理論は修正主義と呼ばれて居る。しかしそれはマルクス主義を脱却した譯ではないから、修



正マルクス主義といふことが出来る。

修正主義によれば、資本主義の崩壊は、共産黨宣言その他に豫言されて居るやうに間近かに迫つて居るものではない。また社會主義の實現は突變的な革命によるものではなく、國家及び自治體に於ける民主政治、勞働組合、消費組合、勞働立法等の發達によつて漸進的行程を辿るものと主張する。即ち修正主義は正統主義よりも資本主義崩壊へ至る期間を長く見て居り、また激變主義を排して漸進主義を採つて居る。更にマルクスによれば資本主義の發達につれて、勞働階級は益々貧窮化し奴隸化し野獸化するといふのであるが、修正主義によれば、それは事實に反することであつて、例へば工場法も勞働組合も消費組合もなかつた十九世紀初頭の英國勞働階級の生活状態と同世紀末葉のそれとを比較すれば、たしかに生活は改善されて居るのであつて、この點に於いてマルクスの**貧窮説**は誤つて居るといふのである。

また**恐慌**に關しても、マルクスは一回と**恐慌**は激烈な度を加へて行くと説いたが、修正主義は、勿論**恐慌**は起きて居るが、それは緩慢化する傾向はあつて居る。マルクスの資本集中説に對しても、富豪階級と極貧階級との對立を生ずるといふのは誤りであつて、社會の階級的分化は、所得高の點に於いても職業の種類に於いても、從來よりも著しく複雑化し多岐化して居ると主張して居る。

尚ほ修正主義の持つ著しい一つの特徴は、マルクス主義の一要素である唯物主義を理想主義的に修正した點にある。これは新カント哲學の影響によるものである。ドイツ社會民主黨にあつて、カント主義の價値を認めた最初の人はシユミットであつた。カント主義によつてマルクス主義の認識論的及び論理的基礎を修正することに最も力を注いだのはベルンシュタインよりも、オースターリのアドラー、ドイツのフォーレンデル等であつた。マルクス主義によれば、物質的利害の不一致を基礎とする階級闘争によつて資本主義は必然的に崩壊するといふのであるが、修正主義



は、無産階級の倫理性と正義感との發達が資本主義の崩壊と社會主義の到来とを導く重要な原因だと主張する。即ち彼等は、社會進化の原因を物質的のみに見ないで、精神的作用を相當に重視するのである。マルクスは「労働者階級は實現すべき理想を有せぬ」と云つたが、ベレンシュタインは「労働者階級の目的は、文化發展の過程に於ける一進歩を示し、より高き道徳と正義感とを示す一個の社會觀を以つて貫かれて居る」と述べて居る。つまり修正主義は社會主義運動に普遍的な倫理性を基礎づけたのである。

正統マルクス主義者と修正マルクス主義者との間に激しい論戦を生じた。前者はカウツキーがその代表者であり、後者はベレンシュタインがその代表者であつた。しかし修正主義は相當に強くドイツ社會民主黨の中に浸潤して行つた。そして同黨の行動を穩健化した。しかるに一九〇五年のロシア革命があつてから、修正主義と修正主義との理論闘争は幾分下火になつて、カウツキー等は左翼派として現はれた

リープクネヒト、ローザ・ロクセンブルグ等と論争を交へることになつた。そうなる  
とマルクス主義は三派に分れ、修正主義者は右翼派となり、カウツキー等の正統主義者等は中央派となり、リープクネヒト等は左翼派となつた。歐洲大戦が起るや、社會民主黨はこれら三派に分裂して、右翼派が社會民主黨、中央派が獨立社會民主黨、左翼派がドイツ共産黨となつた。しかし大戦後、右翼派と中央派とは合同して現在に於いては社會民主黨と共産黨との對立となつて居る。

修正主義が事實に基いてマルクス主義の空想的要素を修正した點に於いて、一個の重要な意義を認めなければならぬ。マルクスが階級闘争の發展と資本主義の崩壊とを割合に簡単に考へて居つたのは明かであつて、修正主義がその後の資本主義發展の社會事實に徴して、社會革命なるものがしかく簡単に運ぶものではないことを主張したのは力強い見解と見なければならぬ。そして社會運動の實行手段として、民主主義的進化主義を高調した點にも深い意義を含んで居る。しかしながら修



正主義が如何にマルクス主義の缺點と誤謬とを確實に修正したとしても、マルクス主義の大原則たる階級闘争による資本主義崩壊の理論はこれを動搖せしむることとは出来ない。また修正主義は資本主義の壯年の發展期に面して樹てられたものであるから、資本主義の爛熟期に適合しないものがある。例へば今日マルクスの資本集中説は大體に於いて事實に適合するものであつて、少數なる富豪階級と大多數の無産階級との對立は事實となつて我々の眼前に現はれつゝある。この點に於いて修正主義は正統主義の前に兜を脱がねばならぬ。一九二一年の右翼派社會民主黨大會に於いて決定されたゲルリツツ綱領は、修正主義に基いて書かれたものであつて、その起草者はベルンシュタインであるが、その中に、資本主義經濟が經濟的不平等を高め、贅澤三昧の生活をなしつゝある少數大富豪と窮乏に備みつゝある大多數無産階級との對立を生じ、従つて無産階級解放のために、階級闘争が歴史的必要及び倫理的要求となつて現はれたことを述べ、更に世界戦争と平和條約とがこの傾向を

激成し、一方に産業の合同や聯合が行はるゝと共に他方に中小企業家や俸給生活者群が無産階級化したことを述べて居る。こうした點に於いて修正主義はやゝ正統主義に逆戻りした感がないでもない。

要するに修正主義のマルクス主義批判は、正しい點も誤つた點もあるが、マルクス主義に宗派的に拘泥しないで、客觀的事實の立場に立つてこれを批判したところに理論的價値があるといはねばならぬ。修正主義はマルクス主義の基礎を覆するものではなくて、これを現實化し、實踐によつてその正しきを取り、その誤れるを棄てたものと見るべきである。しかし修正主義の立場は、世界大戰以前の社會狀況に直面したものであつて、マルクス主義を右翼化したものであり、しかもあまりに右翼化したところのあることも亦認めなければならぬ。世界大戰後マルクス主義の左翼派たる共産黨が活潑に現はれて以來、正統主義と修正主義との闘争は緩和され兩者は漸次に歩み奇つて社會民主主義の旗の下に合流し、今度は共産主義と社會民



九二  
主義との精彩ある闘争が展開されるに至つた。人間的にいへば、カウツキーとベルンシュタインとが握手して、レーニンと論戦を交へるやうになつたのである。

#### (四) フェビアン主義

フェビアン主義は一八八四年に設立されたフェビアン協会の指導精神であつて、今日英國社會運動の基礎的理論をなすものである。フェビアンといふ名稱は、ローマの名將フェビアスから取つたものであつて、フェビアスはカルセーデの大將ハンニバルと戦つたとき、時機の至るまでは陰忍自重し、ひとたび時機至れば果斷に出るといふ方針であつた。フェビアン協会は、英國に於ける社會主義者の思想團體であるが、このフェビアン主義は現代英國労働黨の指導理論であり、そして社會主義とはいつても、マルクス主義とは著しく内容を異にして居る。協會を指導する重なる人々は、シドニー・ウエップ夫妻、バーナード・シヨオ、シドニー・オリバー、グラハム・ワラス等である。一八八七年に決定された「フェビアン協会の原理」の中に次のやうな言葉がある。



「フエビアン協會は社會主義者より成る。故に土地並に産業資本を個人及び階級の所有より解放し、一般公共の利益のために、これを社會の所有に置くことにより、社會改造の目的を達せんとするものである。この方法によつてのみ、我國の自然的並に人爲的利益は、一般民衆により公平に分たれることが可能である」

フエビアン主義はその結論に於いてマルクス主義と一致する。しかしマルクス主義が餘利價值論から出發して居るのに對して、フエビアン主義はリカードの地代論から出發して居る。リカードの學說によると、或る土地の地代といふものはどうして生ずるかといふに、その土地の收穫量とその土地に投下した資本勞働と同一量のもの、他の最劣等の土地に投下して收め得べき收穫量との差額によつて生ずる。即ちその差額が悉く地代として土地所有者に收められるのである。だから資本及び勞働は、これを如何に肥沃なる土地に投じても、その最劣等地に投下せられたる場合の收益以上に報酬を受けることは出来ないことになる。この地代説を根據として

土地國有論を唱へたのがアメリカのヘンリー・デヨージである。彼等は地主が地代といふ不勞所得を取るから、民衆の貧困を生じ、社會問題が起ると考へた。そこで土地單稅主義によつて地代を悉く國家に徵收し、地主階級が獨占した利益を社會全體のものにしなければならぬと主張するに至つた。

ヘンリー・デヨージは一八八二年彼の土地社會主義を宣傳するために渡英したのであるが、彼の大膽にして信仰的な態度は、イギリスの人心を強く動かした。しかし彼れの土地社會主義は、地代收得の否定を宣傳するに伴ふて、利子及び利潤の收得に對する疑問さへも起さしむるに至つた。こゝに於いてリカードの地代説を更に利子及び利潤に對して適用し、利子及び利潤も不勞所得であるから、土地と同じく資本も國有にして、地代、利子、利潤をすべて社會全體の所有にすべしといふ主義が起つてきた。これが則ちフエビアン主義であるし。

フエビアン主義はハックスレーやスペンサーなどの進化論の影響を受けて、社會



の變化が激變的な革命によつて成されるものでなく、漸進的な進化によつて行はるものであることを主張する。部分的な済し崩しの改良の集積が、漸次に社會の資本主義的色彩を稀薄にし、社會主義的色彩を濃厚にして行くのだといふのである。故に労働組合や消費組合の發達、社會立法の促進、市營及び國營事業の創設擴張、資本家に對する累進課税等は、いづれも社會主義に近づく一行程たるものである。しかししてその方法はあくまで合法的平和的であつて、暴力主義を排する。パーナード・ショウはいふ「汽車の一等車と二等車とを變じて二等車たらしめ、貧民窟と官殿とを變じて快適なる住宅たらしめ、寶石商と裁縫師とを變じて、パン屋と建築工たらしむることが、單にマルセーユ（革命歌）の高唱によつて行はれるものでないことは何人も疑はざる所である」と。この點に於てもマルクス主義と異るところがある。

フエビアン主義の方法的スローガンは「浸透政策」である。即ち階級闘争主義に

反對して、有産階級たるは無産階級たるを問はず、萬人に對して能くフエビアン主義を普及し説得して、社會主義の實現を期さうといふのである。この點に於いてフエビアン主義は、マルクスの唯物主義に反對して理想主義に立つて居る。たしかにこの主義は倫理的色彩が濃厚であるが、しかし前に説明した唯心的社會主義とはちがつて、頭の中で勝手にユトローピアを描いて、それを萬人に宣傳して實現しやうといふのではなくて、社會進化の現實に立脚して合理的な社會主義國家を建設しやうといふのである。ところで最初フエビアン協會は、獨立の政黨を作らうとは考へないで、唯だ浸透政策一點張りて、主義の實現をはからんとしたのであるが、後に至つて方針を變更し、遂に労働黨に加盟して政治闘争に参加することになった。現在労働黨は英國政界の第一黨の地位にあつて、政權を掌握して居るが、フエビアン主義によれば、労働黨と保守黨との政争は階級闘争ではなくて、たゞ進歩派と保守派との争ひといふことになる。しかしして事實に於いて有産階級が保守黨を支持し、



無産階級が労働黨を支持して居る以上、この政争は階級闘争と見ることが妥當である。フェビアン主義の階級闘争否定は、理窟だけでは通らぬこともないが、事實に照して苦しいところがある。

不勞所得の解釋に就いて、マルクス主義の餘剩價值論が正しいか、フェビアン主義のリカード的社會主義が正しいか、一個の學問上の問題であるが、こゝではこれを詮索しないことにする。いづれにしても不勞所得を廢止することによつて無産階級を解放しやうといふのであるから、結論に於いて一致する譯である。要するにフェビアン主義は、イギリスの特異なる社會形態が生んだ特異なる社會主義である。あたかもロシアの特異なる社會形態がレーニン主義を生んだやうに。だからイギリスの社會運動はマルクス主義を歡迎しないで、フェビアン主義によつて指導されつゝある。我々はフェビアン主義の有する進化主義から示唆を受けるものが多い。

### (五) 無政府主義

無政府主義、これを細かくいへば、色々分派があるが、その共通した原理をいふならば、權力を否定し、財産を共産にし、各人の自由が完全に確保される社會組織を建設せんとするものである。無政府主義といふ名稱は、權力否定即ち國家否定の意識を強く現はしたものであるが、そしてまたそこにこの主義の特徴もあるのであるが、財産の共産といふ意識をも含めるために、無政府共産主義とも呼ばれて居る。無政府主義を最も廣義に解するならば、マルクス主義もまた無政府主義の一種だといふことが出来る。何んとなればマルクスも社會主義社會發達の終局に於いて國家の死滅を理論的に豫想したからである。しかしマルクス主義は資本主義社會の直後に無政府社會が來るといふのではなくて、資本主義社會から無政府共産主義社會に至る過渡期に於いて、無産階級が政治權力を掌握する國家の存在を認めて居る。こ



れに反して所謂無政府主義は、権力を一切の悪の根源なりと見る立場に立つて居るから、権力の組織たる國家を直ちに破壊し、資本主義國家の直後に理想の自由社會を建設せんとするものである。故に無政府主義者はマルクス主義を強權的共產主義なりといひ、それが権力と妥協して居ることを攻撃して居る。

ブルードンは無政府主義の父と呼ばれて居るが、無政府主義を最も科學的理論に組立てたのはクロポトキンであつた。彼れはロシアの貴族の家に生れたが、優れた自然科学的教養と美しい人道的感情の持主であつた。彼れの理論は自然科学的基礎の上に立つて居る。彼れの理論によれば、生物進化の重要な役目をなすものは、ダーウィンの説いた生存競争よりも相互扶助である。人類は一般の動物と同じやうに本質的に相互扶助の本能を有して居る。この社會本能が人類の未開時代から現代に至るまで、そしてまた將來に亘たる進化發展の原動力となるものである。然るに國家の存在は人類社會の進化發展を妨げて居る。國家の起源は比較的新しいのである。

故に國家を踏み越えて、人類の自由社會、各人の自由が發展する自由な自治體が自由に聯合する社會へ進まねばならないのである、それは人が人を支配せず、人が人を掠奪せず、完全に相互扶助の體現された社會である。人類に自由を與へれば、そこに美しい相互扶助の社會が生れるといふのである。

更にクロポトキンによれば、現代資本主義國家は、各人の自由を抑壓して居るばかりでなく、多数の者を貧困に陥れて居る。それは生産力の缺乏からではない。資本主義經濟組織の下では生産力が抑制され又は濫用されつゝあるからである。現代社會には生産に従事しないで他人の勞働の結果を掠奪する寄生蟲的徒輩が多く、そして資本家階級は自己の利益獲得のみを目的として、正しい最大の生産能率を發揮しやうとしない。尙ほ巨大なる軍備費、富豪の奢侈、無駄な商品の生産等も生産力の減退又は濫用の原因である。故に生産力の濫用と空費の多い資本主義經濟組織を改造して、近代科學に基く共產主義社會を作るならば、現在より少き勞働によつ



て、人類は幸福な生活を営むことが出来る。また現在のやうな奴隷的な不愉快な労働を改めて、人間の創造的本能を満足するやうな藝術的な労働にすることが出来る。富の分配方法としての貸銀制度も廢止し、各人は「必要に応じて分配」さるべきだといふのである。

無政府主義の一つの特徴は、土地及び資本の分有主義にある。普通社会主義は土地及び資本の公有を主張して居るが、無政府主義は大なる社会團體が土地及び資本を公有することを以て自由の原則に反するとなし、小規模の地方自治體が各々これを所有することを主張して居る。無政府主義は各人の自由を高調する結果として、大規模産業を排して小規模産業を妥當なりとする。しかるに現代の産業は大企業化して居るから、無政府主義の産業政策は資本主義發展の後に適用さるべきものではなくて、反對に現代より逆戻りすることになる。これが無政府主義の復古的だといはれる所以である。

無政府主義の實行方法について、平和手段を主張するものと暴力手段を主張するものがある。前者がブルードン、ゴッドウィン、トルストイ等であり、後者がバクレーン、クロボトキン、ヨハン・モスト等である。暴力派にも二種あつて、少數者の恐怖手段によらんとするものと、革命的労働組合主義によらんとするものがある。前者の代表者はバクレーンであつて、彼は「破壊の精神は建設の精神なり」といひ、勇敢なる少數者の破壊的暴力は即ち創造力なりと認めて居る。彼れの手段は、組織的大衆運動にあらずして、社会事情によつて偶發的に生ずる一揆暴動である。これに反して組織的大衆運動によらんとするものは革命的サンヂカリズムである。

革命的サンヂカリズムは一名無政府主義的労働組合主義とも呼ばれる。彼等は現代の資本主義國家を打破して、権力なきとして労働組合が經濟的管理を行ふところの生産者本位の社會を建設せんとするものである。彼等は實行方法として政治行動



を否定する。議會は資本家階級の利益を圖り労働階級を壓迫する機關であるから、議會に労働者の代表を送ることは、妥協であつて、階級闘争の意識を麻痺せしむるものと認める。故に最も正しい手段は經濟的直接行動——ストライキ、サボターヂ、ユ等々——あるのみである。そして資本主義社會を倒潰することは、機會ある毎に小ストライキを起し、それを全面的に導いて行つて遂にゼネラル・ストライキを敢行することによつて達せられるといふのである。革命的サンデカリズムの運動方法は、パターニオン等の主張した少數者の創造的暴力と異つて、労働組合といふ大衆的組織による階級闘争に訴へるのである。この點に於いて革命的サンデカリズムはマルクスの階級闘争主義に感化を受けたといふことが出来る。

無政府主義の理論の中で我々の最も傾聴に値するものは、クロボトキン等の説いた社會進化の原動力としての相互扶助本能の所論である。この點に於いて無政府主義はマルクスの辯證法的説明よりも遙かに科學的根據を持つて居る。しかしながら

無政府主義が國家を以つて一切の惡の根源なりと見、これを破壊することを最大の任務と考へて居ることは、明かに認識の誤りといはねばならぬ。我々の一切の惡の根源は經濟的搾取にありと見、そしてその搾取階級が國家機關を壟斷する所に弊害があるかと考へる。國家といふ權力組織が、搾取階級が被搾取階級を統制する機關であるか、又は人類の社會生活の上に必然的に必要なる超階級的機關であるか、これは學問上議論の存する所であり、また將來の經驗によつて解決さるべき問題である。いづれにしても歴史的發達を遂げてきた國家の消滅が容易に可能であるかの如く考へ、そして資本主義國家を打破すれば、直ちに無政府的な自由社會が出現するかか否かの如く考へるのは明かに空想といはなければならぬ。無政府主義にはこうした空想主義が多分にあることを看過することは出来ぬ。無政府主義の極端な國家嫌惡の意識は、舊ロシアの如き極端な專制國家の彈壓主義に對する端的反撥として現はれたものと見ることが出来る。



革命的サンヂカリズムはパターニン等の無政府主義に對比して新派の無政府主義と呼ばれて居るが、新派は舊派に比較してより現實的要素を含んで居る。新派が労働組合の組織と機能とを重要視しこれを新社會の萌芽として舊社會の中に發達せしめなければならぬと主張して居ることは、もとよりその中には多くの誇張も混つて居るけれども、或る妥當な眞理を攫んで居るといはなければならぬ。しかし彼等の主張は、一切の政治行動を排して、純經濟闘争に終始せよといふのであるから、そこに彼等の立場があまりに偏倚して居ることが見出される。一切の政治行動を忌避して、たゞ經濟行動一點張りて以つて資本主義國家を根本的に改革しやうといふのは、明かに空想主義といふべきである。しかし我々は革命的サンヂカリズムの發生事情を見れば、首肯出来るものがないではない。この理論の原産地はフランスである。従来フランスには有力な労働組合がなく、社會運動は殆んど社會黨の政治運動に限られて居た。ところが社會黨の指導者等の意識が無産階級性を失つて市民的民

主主義化し、遂には無産階級を裏切つて、有産階級に投ずるやうな醜態を演ずるに至つた。ミルランの如きはその典型的人物であつた。こうした事實に對して、政治運動否認の思想が起り、偏狹なる革命的労働組合主義が發生したのは、極端から極端への反動的現象ではあるが、或る必然性を認めることが出来る。

尙ほ革命的サンヂカリズムがフランス特有の社會事情から生れて居るもう一つの點は、この理論がフランスの如き小企業の多い國家に於いてのみ發達するといふとである。即ち新社會を労働組合の自由聯合組織となし、自主的な各組合が生産の全部的管理をするといふやうな思想は、大産業の發達した資本集中の國家に於いては到底適合し得ないものである。この點に於いては、無政府主義は舊派も新派も資本主義發達に關する考察が甚だ不完全であつて、マルクス主義の精緻なる考察に遠く及ばないものがある。近代の傾向として、無政府主義運動は世界的に凋落を示しつつあるが、それはそれが持つ空想的要素が實踐に於いて破産したからである。



## (六) ギルド社会主義

一〇八

無政府主義以外の社会主義に於いては、生産手段を国有とし、その管理經營もまた國家の手で行ふといふのが普通であつて、こうした思想を集産主義ともいふ。集産主義は中央集權的な社会主義を意味するのである。國家及び公共團體は強制的消費者團體であつて、消費者の利益を主眼とするものであるから、集産主義は勢ひ生産者の立場よりも消費者の立場を偏重することになる。だから集産主義に反對するものは、これを以つて消費者專制の社会主義なりと攻撃する。集産主義に正面から反對するものは革命的サンヂカリズムである。彼れは國家なき生産者中心の社會を建設しやうとするのである。しかしサンヂカリズムに反對するものは、それが生産者專制の思想であつて、消費者の立場を全く顧慮しないといふのである。そこで集産主義の消費者本位と革命的サンヂカリズムの生産者本位とを調和して一個の新し

い社会主義を提案したのがギルド社会主義である。

ギルド社会主義にも種々の潮流があるが、その代表的のものとしてコールの説を聞けば斯うである。集産主義は生産手段を国有化するから、従來の利潤利子地代は資本家の懐に入らずして國家又は公共團體に歸するであらうが、産業經營も國家で行ふから、消費者の利益が偏重せられ、生産費は節約せられ、従つて労働者の雇傭條件も低下される傾向にあるに相異なる。資本主義時代には資本家が労働者を掠奪したが、今度は國家が労働者を掠奪することになる。故に集産主義は國家資本主義に外ならない。この弊害を除くためには、生産手段の国有化は差支ないが、産業の管理經營はすべて労働者の自治に委すべきである。この労働者の生産自治機關をギルドといふのである。しかしして消費者の代表機關としての國家は、その本質的職能たる教育衛生軍備警察外交等の行政を司り、生産者の代表機關としてのギルドは一切の生産に關する職能を司り、國家とギルドとは平等に對立し協力して行くべ



きだといふのである。要するにギルド社会主義は、消費者と生産者との職能的立場を二元論的に代表せしむる社会主義社会を建設しやうといふのである。

ギルド社会主義は集産主義並に革命的サンデカリズムに對する批判としては鋭い見解を示して居るが、この主義の理想とする社会組織が果して妥當なるものであるかどうか多くの疑ひがある。その最も大なるものは、國家とギルドとが常に平等に圓滑に協調して行けるかどうかである。若し兩者の妥協が破れた場合どうなるのかこの點に就いてギルド社会主義は根本的に弱點を持つものといはなければならぬ。我々はこの主義の持つ建設的内容に關しては疑ひを抱くものであるが、しかしこれは集産主義の缺點に對する批評として、換言すれば集産主義の缺陥を補正して行くものとして、有力なる理論的價値を有するものと考へる、また實際に於いても社会運動の本流たる集産主義はギルド社会主義の批評を漸次に合理的に受け入れつゝあるといふことが出来るのである。

季子

### 第六章 共產主義と社会民主主義の對立

#### (一) 兩派對立の中心點

現代の社会主義運動に於いて、最も大きい最も鋭い對立を示して居るのは、共產主義運動と社会民主主義運動とである。この對立は世界的にまた國內的に示されて居る。前者の代表的のものはロシア共產黨であり、後者の代表的のものはイギリス労働黨、ドイツ社会民主黨である。我國に於いてもこの對立があつて、前者は舊労働黨今の政治的自由獲得労働同盟であり、後者は社会民衆黨である。この兩派の中間を行かうとする無産政黨もあるが、それは大衆的印 象が稀薄であつて、到底一個の強大なる牙城を築き得る根據を持たないものである。ところで前にも述べた通り、一概に社会民主主義運動といつても、その中を嚴密に検討するならば、指導



理論が完全に一致して居る譯ではない。ドイツ社会民主党はマルクス主義の流れを汲んだ社会民主主義を奉じて居るが、イギリス労働黨はフェビアン主義を基礎とせる社会民主主義を奉じて居る。しかしロシア共産黨並に第三インターナショナルの指導理論に對するときは、ドイツ社会民主党もイギリス労働黨も指導理論に於ける小異を捨て、大同に就いて居る。

しからは現代に於ける各派の社会民主主義運動を結びつける共通理論は何んであるか、そしてまた社会民主主義運動が共産主義運動と對立する指導理論の中心點は何んであるかといふに、それは運動方法としての民主主義に對する價值判斷である。即ち共産主義者が運動方法としての民主主義の價值を否定又は輕視して居るのに對して、社会民主主義者はこの價值を重視して居る。共産主義者が運動方法として無産階級の獨裁政治を主張して居るのに對して、社会民主主義者はこれに極力反對して居る。こゝに兩派の理論の根本的に相容れないものがあるのである。しかして

注意すべきことは、この兩派の理論の相異は、運動方法としての獨裁主義か民主主義かといふことだけに止まらずして、社會進化の過程に關する理論の相異にまで發展してくる。換言すれば社会主義建設の時期の問題と關聯してくる。即ち共産主義者が突進主義をとるのに對して、社会民主主義者は進化主義をとることになる。私には兩派の理論の中心點を要領的に語らうとするのであるが、先づ順序として民主主義の説明から始める。



### (二) 民主主義の意義

民主主義とは何んであるか、これには色々の説明があり得るが、簡単にいへば自由平等主義である。完全なる民主主義の實現された社會は、自由平等の支配する社會である。故に社會運動の最後の目標は、完全なる民主主義の社會にありといふことが出来る。我々が社會主義を實現しやうとするのも、社會主義が眞の民主主義社會の經濟的基礎をなすものだからである。それだから完全なる民主主義社會はこれを倫理的に見るならば完全なる民主主義の社會といひ得るのである。つまり民主主義は倫理的の言葉であつて、一切の壓迫の排除されたところの人類の自由平等の社會状態をいふのである。カウツキーが「我々の目標は、階級、政黨、性、民族等に關する一切の掠奪と壓制とを廢止する（即ち完全なる民主主義の實現）に在る」といひ、

レーニンが「ひとり共產主義のみが眞に完全なる民主主義を與へることが出来る」といつたのは、いづれも完全なる民主主義の實現が、社會運動の最後の目標なることを指示した正しい説明といはなければならぬ。

社會運動の目的としての民主主義に就いては、共產主義者も社會民主主義者も何の異論はないのであるが、社會運動の手段又は過程としての民主主義に就いては、こゝにやかましい問題が生じてくる。我々は現下の資本主義社會に於いても、不完全ながら或る種の民主主義を獲得して居る。例へば普通選挙である。普通選挙は參政権を民衆に平等に與へるものであるから、たしかに一個の政治的民主主義の制度である。ところで社會運動の方法として、この普通選挙を以つてブルジョア・デモクラシーなりと認め、その利用價値を否定し若くは輕視しやうとするのが共產主義者である。これに反して民主主義を以つて人類歴史の發達過程を通じて成長しつゝある正しき自由平等の制度なりと認め、従つて普通選挙の價値を認め、これを積極



的に利用すると共に擴大して行つて、社會主義を實現し、理想社會を建設しやうとするのが社會民主主義者である。ブルジョア社會に於いてブルジョア階級によつて與へられる民主主義には一定の限度のあることはたしかである。故にその一定限度の民主主義を、その一定限度を示す意味に於いて、ブルジョア・デモクラシーと呼ぶことは一向差支ない。しかしブルジョア・デモクラシーはブルジョア階級の欺瞞政策なるが故に、社會運動の方法として價値なきものと認めることは誤つて居ると見るのが社會民主主義者の立場である。彼等は資本主義社會に於ける不完全なる民主主義を積極的に擴大し成長せしめて、以つて無産階級の解放を圖らうとするのである。

政治的民主主義は政治的自由とも呼ばれる。政治的自由の重なるものは、參政の自由、言論、集會、結社の自由等である。現代の資本主義國家に於いては、多かれ少かれ政治的自由は存在して居る。英國の如きは最も高度の政治的自由の存在する

國家であるが、我國に於いては尙ほそれは甚だ不完全である。故に我國の無産政黨は何れもその政策に「政治的自由の獲得」を掲げて居るのであつて、かの共產主義を奉ずる奮勞黨一派も「政治的自由獲得勞農同盟」なるものを組織して居る。しかし共產主義者の掲ぐる政治的自由獲得の看板は、宣傳題目若くは闘争題目としてこれを利用するのであつて、根本に於いてはこれが價値否定の上に立つて居るのである。共產主義者の政治的民主主義に對する價値否定の代表的なるものとして、レーニンの見解を聞いて見やう。



## (三) レーニンの民主主義否定

レーニンは斯ういつて居る。發達に最も都合な條件下にある資本主義社會に於いて、我々は民主共和國の形式に於いて多少完全な民主主義を持つて居る。しかしながらこの民主主義は、つねに資本家的搾取の狭き枠によつて縛られ、その結果實際に於いてはつねに唯だ少數者のための民主主義、唯だ所有階級のための民主主義、唯だ金持のための民主主義になつて居る。資本主義社會に於ける自由は、古代ギリシヤ共和國に於ける自由即ち奴隸所有者のための自由とあまり變らないものである。近代の賃銀奴隸は、資本家的搾取の状態のために、貧困と缺乏とにより非常に壓迫されて居るから、「民主主義に氣をかけることが出来ず『政治のための餘裕』を持たない。即ち普通の平時状態に於いては、國民の大多數は公の政治生活に參與することを阻止されて居る。

取るに足らぬ少數者のための民主主義、金持のための民主主義、これが資本主義社會の民主主義である。若し我々がもつと突つ込んでブルジョア・デモクラシーの仕組みを見るならば、所謂選舉の細則（住居の資格、婦人の除外等）に於いて、選舉慣習の熟練に於いて、集會の權利に對する實際の妨害（無産階級には公の建物がない）に於いて、月刊新聞の純資本家的組織に於いて、其他すべての方面に於いて我々は民主主義の制限に次ぐに制限を以てせるのを見るであらう。無産階級に對するこれらの制限、例外、排除、妨害等は輕視されて居る。殊に自分自身で缺乏を知らないで獸群のやうな生活をして居る被壓迫階級と接觸して生活をしたことのない人の眼には、それが軽く見えるのである。しかしブルジョア評論家及びブルジョア政治家の十分の九は、百分の九十九とまでは行かなくとも、この階級の人間である。しかるにこれらの制限が、政治より、民主主義への積極的參加より、無産階級を排除し突き出して居る。マルクスがコンミュニンの經驗を分解して、被壓迫階級は



数日毎に一回、彼等を議會で代表し且つ壓迫する壓迫階級の代表者を決定すると云つたとき、彼はブルジョア・デモクラシーの眞體を立派に擡んだのである。

しかしながら自由主義の教授や小ブルジョアの御都合主義者等が我々に信せしめやうとするやうに、このブルジョア・デモクラシー（必然的に偏狹な、無産階級を藉かに放り出すやうな、従つて根柢から偽善的な不誠實な）から、進歩が單純な平滑な眞直ぐな道を過つて「次第に擴大する民主主義」へ達するやうなことはない。否、共產主義へ向ふところの進歩的發達は、無産階級の獨裁政治を通過して前進する。そして決して他の道を過ることは出来ない。何んとなれば排取的資本家を挫折するに他の方法は無いからである。

即ち無産階級の獨裁政治、即ち壓迫者を挫折するための、支配階級としての被壓迫者の前衛組織は、たゞ民主主義の擴大を生ずるのではない。それは民主主義の非常なる擴大（民主主義は始めて無産階級のための民衆のための民主主義となり、全

持のための民主主義とならない）を生ずると共に、無産階級の獨裁政治は、壓迫者排取者、資本家側の種々の自由に対する制限を生ずるであらう。我々は人類を賃銀奴隸から解放するため、彼等を挫折しなければならぬ。彼等の抵抗は暴力によつて打破しなければならぬ。壓迫のあるところには必ず暴力があり、自由も民主主義もあり得ないことは明かである。



#### (四) 無産階級の獨裁政治

共産主義者は資本主義國家を以つて有産階級が無産階級を支配するための專制的暴力的權力組織であると解する。そして民主主義は闘争的無産階級に對する一個の阿片劑なりと見る。そこで彼等の理論によれば、無産階級が資本主義を廢除しやうと思へば、資本家階級の國家を破壊して、その政權を無産階級の手に掌握しなければならぬ。プハリソンの言葉を借りていへば、「無産階級は有産階級の暴力に對して暴力を以て當らなければならぬ。しかして舊國家の廢墟の上に一つの新國家を建設しなければならぬ。無産階級國家即ちこれである。この國家は他のすべての國家と同じく支配的暴力組織である。」トロッキーはいふ、「解放の第一條件は、ブルジョア階級の手から支配の武器を奪ふことである。ブルジョア階級が一切の權力機關をその手に掌握して居る間は、平和的に權力に達することを考へるのは望なきことである

唯だ一つの道がある。ブルジョア階級から實質的の政治機關を奪ふことによつて權力を掌握することである」

共産主義者によれば、武装的大衆の奮起によつて、一切の有産階級の抵抗を破らし、無産階級が權力を執つてこゝに無産階級の獨裁政治を樹立しなければならぬのである。無産階級の獨裁政治とは、有産階級から一切の政治的自由（言論・集會・結社・参政等々）を奪つて、無産階級が專制政治を行ふことである。プハリソンは「有産階級を全然窒息せしむるにあり」と云つて居る。彼等によれば、この無産階級の獨裁政治は政治的過渡期であつて、永續のものではない。「資本主義社會より共産主義社會に至る推移は、政治的過渡期なくしては不可能である。しかしてこの時期に於ける國家は、無産階級の革命的獨裁政治あるのみである」とレーニンは云つて居る。しかして過渡的現象である無産階級の獨裁政治は、有産階級の抵抗力の弱化につれて、次第に國家的機能を失ひ、遂に國家は衰滅して無政府的共産主義社會が



来るといふのである。

共産主義者は右に述べたやうな方法によつて革命的目的を達しやうといふのであるから、彼等の一切の運動戦術は、絶えず無産大衆の感情を激發してこれを非法的闘争心理に導き、出来るだけ社會的秩序を混亂に陥れ、そして以つて無産階級が暴力的に有産階級の手から政權を奪取するに都合のいゝやうに社會状態を作り出すことに向けられるのである。彼等は議會に議員を送り、また言論集合結社の自由を利用するが、それは無産階級の民主主義的發達を圖るためではなくして、彼等の目的を達するに必要な内亂的社會状態を展開せんがためである。彼等の要求する政治的自由は、本来の民主主義的なる「政治的自由」にあらずして、實は假面を冠つた「革命の自由」である。また彼等の叫ぶ「社會科學研究の自由」は、眞の意味に於ける學問研究の自由にあらずして、「共産主義宣傳の自由」換言すれば「暴力革命鼓吹の自由」である。要するに彼等は民主主義を否定しながら、民主主義の獲得を叫んで居るのである。

力革命鼓吹の自由」である。要するに彼等は民主主義を否定しながら、民主主義の獲得を叫んで居るのである。

換言すれば  
政治自由



(五) 民主主義の價值

社會民主主義者は社會主義實現の方法として民主主義を重要視する。否、民主主義によつてのみ眞に正しい社會進化の過程を辿ることが出来るかと考へて居る。彼等によれば、眞の社會主義社會は突發的な暴動の一撃によつて生れるものではなくして、無産階級の長きに亘る階級闘争の結果として生れるものである。しかしてその階級闘争を通じて、無産階級は物理的闘争力のみでなく思想的・物質的・技術的・倫理的能力を高めることになり、そしてそれらの能力の發達が新社會の基礎となるものである。即ち社會主義は少數の卓越した指導者が無自覺な無産大衆の反抗感情を煽動し、一舉に政權を奪取することによつて生れるのではなくて、無産大衆自身の眞の階級的自覺とその組織的訓練の成長によつて生れるのである。しかして大衆の階級的自覺と組織的訓練とは民主主義によつて始めて行はれるものである。カウツ

キーはこの點について斯ういつて居る。

「無産階級の階級闘争は、大衆の闘争としては、民主主義を前提とする。たとひそれが絶対に純粹なる民主主義でないにせよ、民主主義は大衆を組織し大衆に統一的開發を與へるのに必要である。これは秘密手段によつては全く不可能である。大衆はこれを秘密に組織することは出来ない。秘密結社は民主主義的たり得ないものである。それはつねに一個人若くは一群の指導者の獨裁政治に導く。一般の團體員は唯だ命令を行ふ道具となるに過ぎない。かくの如き手段は、民主主義を持たざる被壓迫階級には必要であらう。しかしそれは大衆の自主と獨立を發達せしめない。それは却つて指導者の救世主的意識と獨裁的習慣とを發達せしめるであらう」

無産大衆の組織的大衆運動は公然たらざるを得ない。しかして大衆運動の公然性は民主主義を必要條件とする。民主主義のなきところに、即ち言論集會結社の自由なきところに、公然たる大衆運動はあり得ず、若しありとするならば偶發的な一時



的な無組織的な暴動あるのみである。民主主義の價値を否定若くは輕視する共產黨が、無産大衆の自主的發達を念としない。秘密結社による獨裁的革命を行はんとするのは必然である。彼等の戰術は大衆の破壊的なる反抗意識を激動せしめて、社會を混亂に陥れ、それに乗じて政權を奪取することに向けられて居る。かくの如き戰術は支配階級の恐怖手段を誘致することになり、従つて階級闘争に多大の犠牲を生ぜしめることになる。若しそれが失敗に終つたときは支配階級の反動的暴壓政治を濃厚ならしめることになる。それは社會運動の健全なる漸次的發達を促すものではなくて、社會運動に危険なる投機的性質を與へるものである。また若しかくの如き運動方法が成功したとするも、創建された無産階級國家は、一群の指導者の獨裁下にある專制國家であるに相異なる。共產黨の獨裁によつて行はれた革命が、共產黨獨裁の國家を生むのは當然である。レーニンのいふ無産階級の獨裁政治は、實質は共產黨の獨裁政治に外ならないのである。その適例は今日のロシアである。

(六) 民主主義は無能なりや

民主主義は資本家階級のための民主主義であつて、無産階級の運動方法としては無能であるといふのが共產主義者の見解であるが、社會民主主義はこの見解を以て誇張と偏見に囚はれたものと主張する。今日の議會が有産階級によつて支配され、有産階級政治の中樞機關であることは事實である。我國に於いても議會は政友會、民政黨の如き有産政黨によつて支配され、無産政黨は少數黨であり、従つて議會は無産大衆の意志を反映して居ない。しかしそれかといつて無産政黨の議會進出換言すれば無産階級の民主主義的發達は不當であり不可能であらうか。現在の議會のブルジョアの性質は、固定不變のものではなくして、無産大衆の階級的自覺の不足から來て居る。從來久しきに亘つて無産大衆に浸潤してきた資本主義的觀念が、尙ほ容易に抜け切らないために、選挙に際して有産政黨が絶對多數を占めるのである



故に無産政黨・労働組合・農民組合等の根強い組織的な宣傳と教育とを繼續して行くならば、無産大衆に浸潤せる資本主義觀念を次第に除去して、眞の無産階級意識を植えつけることが出来るのであり、その結果として議會のブルジョアの性質をプロレタリア的性質に代へることが出来るのである。

スノーデンはこの點に就いて、斯ういふことを云つて居る。「誤れるものは議會制度でもなく、民主主義的機關でもない。それは選舉人側に於ける理性の缺乏であるこの機關の運用に就いて、一般の知識が啓發されて居ない。それだから大なる効用を發揮し得るこの機關を破壊することをしないで、それよりもこの機關と能力とを正確に理解するやうに選舉人を教育することが妥當な遣り方である。たとひ現在議會が資本主義のために役立つ資本主義的機關であるとしても、健全なる理性は、それが民主主義によつて支配されるときには、同様に一般民衆に役立つことが分かるであらう」

英國の社會運動は最も民主主義的發達を遂げ、そしてこの行き方を肯定する典型的东西である。過般の總選舉に於いて、英國の無産階級は、民主主義を肯定する労働黨と民主主義を否定する共産黨と何れを支持したかといふに、労働黨は八百三十三萬票を獲得し、二八八人の當選者を出し、第一等の地位を占めたのに對して、共産黨は得票數僅かに五萬、當選者は皆無、從來有した唯だ一名の議員までも失つてしまつた。しかも英國に於いては日本とちがつて共産黨は法律的存在を許されて居り、且つ選舉に際して何等の彈壓も受けなかつたのである。英國は資本主義の最も老熟した國家であり、従つて階級對立の最も尖鋭化した國家であるが、その無産階級は民主主義に對する信仰を棄てないのである。今日に於ける英國社會運動の驚くべき發達は、過去數十年を通じて民主主義的方法に依つた結果であるが、彼等は現在に於いても民主主義的指導精神を棄てる模様は見えない。それは近來共産黨の勢力が益々衰へつゝあるのを見ても分かる。社會運動の民主主義的發達は、無産階級



の單なる感情的反抗ではなくて、眞の階級的自覺の發達によるものであるが、この階級的自覺は、無産階級に對する根強い教育運動によつて生れる。英國労働黨の偉大なる發達は、無産階級に對する數十年間の教育運動が如何に有效であつたかを實證するものだトスノーデンは云つて居る。

### (七) 議會主義の豫備條件

資本主義の發達によつて必然的に社會主義が生れるといふことは、社會進化の動かすべからざる法則であるが、これは極めて大まかな原則であつて、嚴密にいへば資本主義社會を破壊しへすれば、直ちに立派な社會主義社會が生れると考へるの輕率といはなければならぬ。新社會は突然に生れるものではなくして、それには前提として一定の豫備條件の具備を必要とする。マルクスも新社會の生成は、舊社會の母胎の中に新社會の胎兒の成長すをことを必要として居る。しからは社會主義實現の必要なる豫備條件は何んであるか。

(一) 大産業の發達である。産業を社會主義的に組織し統一することは、大産業に於いてのみ可能である。大産業が發達せずして、小産業の多い國家に於いては、社會主義の實現は全く絶望である。大産業の發達は、社會主義實現のための根本的



必要なる物質的條件である。

(二) 無産階級が社会主義精神を把握することである。これは大産業の發達と社会主義運動の發展とによつて實現される。小産業が没落し、生産と資本が極少數の財閥階級に集中せられ、もはや生産手段を社会主義化しなければ動勞大衆の生活向上が望まれない状態に達したとき、社会運動の宣傳と教育とによつて大衆は社会主義精神を把握することが出来るのである。これが社会主義實現のために必要なる意識的條件である。

(三) 無産階級の勢力の増大である。資本主義の發達によつて無産階級の数は増加する。量的増大も必要だが、そればかりでは不十分である。それが組織され訓練されなければならぬ。組織されない無産階級は、質的には有産階級的である。彼等は一時は煽動によつて感情的に有産階級に反抗することはあつても、また風向きによつて反動化することもある。無組織な暴民ではなくして、無産階級の強大なる組織的陣營が、有産階級の陣營を凌駕するやうになることが社会主義實現の必要條件の一つである。

(四) 無産階級は社会主義を理解しこれを希望するのみならず、新生した社会主義社会を管理運用するだけの能力がなければならぬ。これは極めて重要な條件であつて、カウツキーが「若し資本主義の廢止を欲するならば、他の組織形態が創造されなければならぬ。この新組織形態は資本主義に代つて、より良く社会的機能を發揮し得るものでなければならぬ」と云つて居るのは至言である。

右に述べた四個の豫備條件の中、第一の條件は純物質的條件であるが、他の三條件は社会運動の大衆的發達に俟たなければならぬものである。しかして社会運動の大衆的發達は、民主主義的方法による外はない。共産黨の秘密結社主義と非合法主義とは、無産大衆を一時的に花々しく煽動する効果はあつても、大衆の組織を根強く継続的に築き上げる底力を持たない。共産黨の運動方法は、何かの社会的動亂に



乗じて大衆を激發するには適當であらうが、そんな社會的異變の豫想出來ない平時の社會状態にあつて、漸次に社會主義の豫備條件を作り上げて行かうとする健全なる社會運動には適當しないものである。また一旦社會的異變が起つたとしても果してロシアで成功したやうに日本に於いて共産黨の戦術が成功するかどうか疑問でなければならぬ。若し共産黨が社會主義實現のために何かの社會的異變を待ち構へて居るとするならば、それは一種の相場師的心理であつて、社會運動の指導精神として甚だ不健全なりといはざるを得ない。

## (八) 破壊と建設

舊社會の破壊も容易でないが、新社會の創造は一層困難である。この點に就いて共産主義者は、破壊も容易であり、そして破壊すれば直ちに容易に新社會の建設も出来るやうに考へて居る。一言にしていへば社會進化に就いて極めて樂觀主義を抱いて居る。それは彼等が資本主義崩壊と社會主義到來の必然論を機械的に解釋して居るからである。社會民主主義者は共産主義者の如き樂觀主義を取るものではない。社會進化の必然性は信するが、その具體的過程に於いて無産階級の多大の努力と聰明とを要することを認めるものである。殊に重要なことは、破壊と建設とを別々に考へないで、兩者を不可分の關係に置くべきことを主張することである。カウツキーは社會主義化の二要素として財産の收奪(破壊)と再組織(建設)とを擧げ、そして生産状態に混亂と行詰りを生ぜしめないうために、これらの二要素を不可分の



關係に置かねばならぬと云つて居る。

樂觀主義と立つ共產主義者は、資本主義を破壊すれば、何とか社會主義は生れると考へるところから、彼等の運動方法は、社會主義の豫備條件の具備如何を無視して、機會さへあれば資本主義を破壊しやうといふ破壊主義に重點を置く傾向が破い。ロシア革命はその現はれである。ロシアは資本主義の發達の低い國家であつて國民の九割は農民である。マルクスは資本主義の高度の發達の後に社會主義が生れると説いたのであるから、ロシア革命は明かにマルクスの説と一致して居ない。だから共產黨の理論家は、社會主義革命は高度の資本主義發達を必要とせぬと辯明しなければならなくなつた。ラデツクは「社會主義革命は資本の作り出した社會状態が、労働者階級にとつて堪え難いものとなつた處に、どこでも起るものだ」と言明し、そして社會主義革命は決して資本主義が高度に發達することを必要とせず、否な却つてそれは資本主義の最も薄弱な國家に於いて始まるとさへ述べて居る。資

本主義が高度に發達しなければ、社會主義の豫備條件が整はないといふことは、前に述べた通りであるが、共產主義者の理論によれば、資本主義の發達が低度であつても、従つて社會主義の豫備條件が甚だ不備であつても、或る國家に突發的な混亂が起つて——それは突發的なもののみしか豫想することが出来ない——これを契機として無産階級が政權を奪取すれば、社會主義は實現するといふのである。むしろその方が社會主義への早道だといふ譯である。しからは共產主義者によつて行はれたロシア革命は、どんな結果をもたらしたであらうか。



## (九) ロシア革命の實績

世界大戦に於けるロシアの敗戦の結果生じた社會的混亂に乗じて、ボルシエビキ一派の運動が功を奏して、一九一七年十一月のソビエツト革命となつたのであるが共産黨政府が經濟政策に於いて先づ第一に斷行しやうとしたものは工業及び農業の國有並に國營である。工業から資本家階級の支配權は奪はれ、革命後約半ケ年は労働者が自ら直接に工業經營に當つた。しかし労働者に統制も訓練もなかつた。彼等に正確な社會主義精神も工場經營能力もなかつた。従來の技術者はその地位を去つた。工場は唯だ無秩序なる労働者に占領されたのであつた。生産能率は必然的に低下し、生産と配給は無政府状態に陥つた。産業界は一大混亂を生ずるに至つた。この混亂を救ふために、政府は嚴格なる規律と秩序とを労働階級に強制しなければならなかつた。一九一八年三月、トロツキーは「労働と訓練と秩序とが社會主義ソ

ビエツト共和國を救ふ」といふ演説を行ひ、労働階級の秩序と訓練の必要を力説した。翌四月の全露ソビエツト中央委員會に於いて、レーニンは「ソビエツト國家當面の任務」といふ有名な演説をなし、無秩序を救ひ、生産力を高めるために、一大改革を實行した。その演説の要點は斯うである。

(一) 労働大衆は労働行程指導者の統一的意志の下に絶対に服従しなければならぬ。

(二) 社會主義への轉移のために、専門技術家の指導を絶対に必要とする。故にブルジョア手段に訴へてブルジョア専門家を高給を以て聘用しなければならぬ。

(三) 労働者の生産能率を高めるために、請負賃銀制、割増賃銀制、テーラー式科學經營法等を採用しなければならぬ。(テーラー式科學經營法といふのは、始め米國資本家によつて採用された能率増進法であつて、最も巧妙なとして最も残忍なブルジョアの搾取方法であることは、レーニン自身もこれ認めて居る)。



社会主義が資本主義よりも進歩して居るといふ重要な理由は、前者が後者よりも生産力を高めるといふことにある。しかるに若し資本主義を破壊して、新らしく生れた社会主義が資本主義よりも生産力が減るとすれば、社会進化の逆轉でなければならぬ。レーニンは當時の労働状態が、従前の地主資本家の下の労働よりも甚しく劣つて居ると述べ、この根本的事実が右の方針を取らしめるのだと正直に云つて居る。一九二〇年に至つて、政府は更に「労働の軍隊化」を企てた。それは労働者の移動の自由を剝奪して、これを軍隊的規律に服せしめることであつた。要するに労働大衆の絶対服従化といひ技術者の優遇といひ請負賃銀制の復活といひテーラー式採用といひ労働の軍隊といひ、これらのものはすべて明かに資本主義的経済政策である。共産黨は生産と秩序と能率のために、已むを得ずこれらの舊き経済政策を採用せざるを得なかつたのである。我々はこゝに社会進化に關する一個の暗示を學ぶことが出来る。

ともかくロシアの大工業は國有になつた。しかし革命によつて生産力が激減したことはたしかである。ロシアの工業生産額は、大戦前に比較して大戦中は三〇パーセントを減じ、革命後は更に五〇パーセントを減じたといはれて居る。革命後十年を経過しても、尙ほ大戦前の生産力を回復し得ないのである。この生産力の減退については、種々なる原因が數へられるであらうが、その主たる原因が、社会主義の豫備條件を無視した共産黨の暴力革命による社会的犠牲にあることは否定することが出来ない。

共産黨政府の最大難關は、工業問題よりも農業問題にあつた。最初共産黨政府は農民に地主の土地を分與した。農民は多年の渴望が満されたので政府を支持した。法律上は土地は國有となつたが、事實は農民の私有とかわらなくなつた。ところが革命前には、農民は納税其他の債務償却のために農産物を賣却したのであるが、革命後はその必要が消滅し、しかも工業は混沌状態に陥つたから、農民は農産物と交



換すべき工業品も得られなかつた。そこで農民は漸く自給自足の状態になり、都市には殆んど食物の供給が途絶える有様となつた。政府は已むを得ず武力に訴へて、農民に對し餘利農産物、時には農民に必要な部分までも強制徴收を實行した。これに對して農民は極力反對し、武力的抵抗をなすものがあり、また耕作を制限して消極的に反抗するものもあつた。生産は激減して多くの耕地は荒廢した。これには政府も大いに困惑し、遂に一九二一年の新經濟政策の採用となつた。

新經濟政策は強制徴收を廢して、農民に農業税（現物税）を課し、農民が農業税以外の餘利生産物を自由處分し得るやうにすることである。一方政府は工業生産力を高めるために、私的小企業の復活を促した。そして農民が餘利穀物を賣つて、工業品と交換出来るやうにした。こゝに於いて共產黨綱領の一項目たる「商業の禁止」を撤廢せざるを得なくなつた。新經濟政策は明かに資本主義の復活である。ロシアの經濟状態が、社會主義を實行するまでに發達して居なかつたから、仕方な

く違反りをして、資本主義的方法に訴へることにより生産力の向上を圖つたのであつた。レーニンは「我々は充分な基礎を持たずに、その經濟的進出に於いて、あまりに行き過ぎたのであつた」と告白した。つまり社會主義の豫備條件の具備せざるに限らず、容易に社會主義が實現するもの如く考へたところに、共產黨指導者の認識の大なる誤謬があつたのである。現在ロシアは政權は共產黨にあるが、經濟機構は社會主義的ではない。國家資本主義的である。否な尙ほ完全な國家資本主義に達して居ない。まことにロシア革命は、全世界の社會運動に大なる精神的刺激を與へたけれども、現實の過程に於いて一舉に社會主義社會を建設することは出来なかつた。破壊の犠牲は大であつたが、建設の歩みは前途の多難である。社會進化の過程を飛躍することは出来ない、これがロシア革命の教訓である。



## (十) 飛躍主義と進化主義

前にも述べたやうに、共產主義者は社會進化に就いて飛躍主義であると同時に樂觀主義である。この飛躍主義と樂觀主義とは何處からくるかといへば、それは彼等の全思想的機構の基礎をなすところの唯物辨證法からくるのである。さてマルクスのエンゲルスの樹立した唯物辨證法は、ヘーゲルの辨證法を唯心的から唯物的へ逆立ちさせたものである。辨證法は觀念の變化發展を認識する思惟の法則であつて、正反合の三段の形式を以て變化發展するといふのである。普通の論理學では、思惟の法則は「肯定——肯定及び否定——否定」となるが、辨證法の論理形式はこれに反して「肯定——否定及び否定——肯定」となるのである。ヘーゲルの辨證法によれば、一つの觀念は必ずその反對の觀念を包む。そしてその反對觀念が發展して、そこに盾矛せる兩觀念の對立が生ずる。この對立は揚棄せられて、更に高さ一つ

の觀念に綜合せられる。かくて矛盾は解決せられる。しかるにこの新しい高さ觀念は、またその反對觀念を自己の内部に産出し、矛盾對立を生じ、そして新らたなる綜合へ進んで行く。かくの如く觀念は正反合の過程を踏んで、次第に低きより高さへ無限の發展を遂げて行くものである。ヘーゲルの辨證法は、觀念の發展を把握する思惟の論理的形式のみにとまらないうで、それが一個の形而上學的世界觀となつて居る。ヘーゲルは唯心論者であつて、宇宙の本体は絕對精神であり、物質は觀念の派出であり、しかして宇宙の發展は、絕對精神が自己分裂及び自己歸一の形式即ち辨證法の形式を以て發展するものと見た。故に彼れは有名なる「すべて實在するものは合理的である」といふ法則を提唱するに至つたのである。

マルクスはヘーゲルの唯心論を棄て、その辨證法を採り、之を唯物論と結合して所謂唯物辨證法を組立てた。マルクスによれば、觀念が實在を派出するのではなくて、實在の反映が觀念である。そして社會機構の根本をなすものは經濟關係で



あつて、經濟關係の發展が人類文明の發達の根源となるものである。そしてその經濟關係の發展は、社會の辯證法的發展をもたらすものである。即ち、或る特定の社會制度は特定の經濟的生産力に適應する。その場合一定の期間に亘つて調和關係が維持される。しかし生産力は絶えず發展する。そして生産力と社會制度との調和關係が失はれ、こゝに矛盾を生ずる。矛盾は衝突となり、舊き社會制度は倒されて、新しい生産力に適應した新しい社會制度が生れてくる。かくして資本主義社會が亡んで、社會主義社會が生れるといふのである。

實在は不斷に發展するものであり、そしてつねに矛盾が發展を促すものであるといふことが、唯物辯證法の特徴であるが、この法則を以てすれば、資本主義社會にも矛盾があり、そしてその矛盾は階級闘争となつて現はれ、階級闘争の結果は矛盾が解決されて新しい社會主義社會が生れることになる。この辯證法的解釋は、階級闘争と革命と社會主義とを説明するのに都合よく當てはまつて居るやうに思はれ

る。しかし我々の注意すべきは、辯證法なるものが特殊の思惟の法則なりとするこゝとは特殊の立場に於いてこれを認めることが出来るが、すべての實在が辯證法の支配にあつて、辯證法的發展を遂げるといふことは、一つの形而上學的假定に立つ世界觀であつて、科學的實證的批判を超越するものである。この點に於いては唯心的辯證法も唯物的辯證法も同じものである。すべて經驗的實在に關する法則は、これを實證的に把握することによつて始めて學的價值を生ずるのである。唯物辯證法が、社會進化を説明するに便利であるとか好都合であるとかいふことは、それが科學的に正しいかどうかといふ問題には何等の貢獻をなさざるものである。

我々の眼前に展開する經濟的社會事實は、必しも唯物辯證法の絶對的妥當を示さない。例へばロシア革命然りである。世界大戰によつてロシアの社會的矛盾は増大した。階級闘争は激化した。闘争の結果は共產黨が政權を掌握して、ソビエツト社會主義共和國が樹立された。しかし共產黨は社會主義を實現しやうとして失敗し、



資本主義に逆戻りをなし、共産黨獨裁下に變態的資本主義國家を作つて居る。ロシアに矛盾と闘争はあつた。しかしその資本主義的生産力は矛盾と闘争により自己を止揚して反對者に移行——社會主義の實現——することは出来なかつた。その自己止揚は極めて不完全なるものであつた。

また例をイタリヤにとる。大戰直後イタリヤは革命的熱狂時代を現出した。戦争以來食糧は不足となり、石炭は缺乏し、労働階級の生活は急激に低下し、しかも一方には戦争成金が生れた。社會的矛盾は増大した。無産階級は奮起して支配階級に肉迫した。到るところ耕地は農民に占領され、工場は労働者に占領された。共産主義の歌はあらゆる會合で高唱された。しかし無産階級が生産機關を占領しても、何等經營の能力はなく、生産は減退し、彼等自身の賃銀も支拂ひも出来なくなり一方資本家階級は原料輸入其他をサポートデユするので、全く手も足も出ない窮境に陥つた。その間に於いてファシストは資本家階級から豊かな資金を供給され、武装

青年團を組織し、無産階級に挑戦した。ファシストは次第に攻勢を取り、暴力を以て労働運動を威壓し、遂に一九二二年十月のローマ進撃となり、反動武斷政治が確立した。これを以つて見るならば、イタリヤに於ける矛盾と闘争は、社會主義の實現とはあべこべに反動主義を現出せしめた。即ち社會運動の辨證法的發展を見なかつたのである。

階級闘争の結果、政權の移動が實行されても社會主義が實現しない場合があり、また政權移動に失敗して反動主義を擡頭さす場合もある。循環と闘争は社會進化の原動力の一面ではあるが全面ではない。循環・闘争・發展の運動法則である唯物辨證法は、一面的法則といふことは出来るが、全面的法則ではない。この一面的法則を全面的法則であるかの如く解し、これを極端に適用するときは、そこに小兒病的なる直線闘争主義、素朴なる破壊主義、樂觀的なる革命主義が生れる、遮二無二闘争して破壊さへすれば、必然的に幸福な新社會が生れるといふ共産主義者の運動



精神はかくして生れる。樂觀主義は同時に飛躍主義である。それは循環・闘争・破壊に重點を置くのあまり、社會主義の豫備條件を無視するからである。共產主義者の飛躍主義は、辨證法の持つ「量の質化及び質の量化」の論理によつて一層助長される、しかしこの論理も、革命の突然變化性を辯解するために用ひられるやうなものであつて、この論理が實證的に普通妥當性を要求するものではあり得ない、一體共產主義者の理論には、それが實證的に經驗的に妥當性を持つものではなくて、むしろ彼等の振り廻す小兒病的革命主義を理論づけるために、都合の好さうなものを外から借りてくる傾向が多い、科學的社會主義と稱しながら、彼等の理論や行動に獨斷の多いのはこれがためである。

社會民主主義者は、あくまで民主主義を基礎とする社會主義の建設を主張する。民主主義の發達によつてのみ、社會運動は健全なる發展を遂げ、そして社會主義の豫備條件を成熟する。彼等は混亂と闘争によつて、がむしやりに政權を奪取するこ

とに専念しないで、資本主義社會の内部にある社會主義の萌芽の成長を重大視する彼等は、労働組合、農民組合、消費組合、社會立法、公營事業の創設及び擴張、有産階級に對する租税の高率累進賦課等を以つて社會主義的萌芽と認め、これが漸次的成長を遂げしむることによつて社會主義へ近づかうとする。しかししてこの漸次的成長は、民主主義的方法によつてのみ可能である。民主主義的方法は、國民大衆をして社會主義を理解せしめ且つ支持せしめる方法である。一群の指導者が大衆に命令し強制する方法ではない。従つて民主主義による社會主義の實現は、必然的に、飛躍的にあらずして進化的ならざるを得ない。進化主義は成長主義である、一本の樹木といへども一夜のうちに成長することは出来ない「自然は飛躍しない」といふ生物進化論の原理は、社會進化の過程にも妥當でなければならぬ。

社會民主主義者がダーイン等の生物進化論に影響されて居ることは明かである。それは殊に英國派の社會主義者に著しい。現代英國社會運動は、民主主義的發達の



典型を示したものであるが、その指導理論の基礎をなす進化主義は、ダーウィン、ハックスレー、スペンサー等の生物進化論に立脚して居る。生物進化論が今日科學的真理として動かすことの出来ない實證的根拠を持つことは云ふまでもない。唯物辯證法を基礎とする共産主義の社會進化論と、生物進化論を基礎とする社會民主主義の社會進化論と、いづれが科學的であるか云はずして明かである。我々が眞に科學的な社會進化の法則を把握しやうとするならば、ダーウィン以後の科學に依據しなければならぬ。ダーウィンが有名な「種の起源」を發行した年と、マルクスが有名な唯物史觀の公式を示した「經濟學批判」を發行した年とは偶然にも一致した一八五九年であつた。マルクスの社會進化法則が、ダーウィン以前の形而上學的な思辯哲學に依據しなければならなかつたのも歴史的事實として已むを得なかつた、しかし現代の我々がマルクスから學ぼうとするには、その中に含まれる一切の思辯哲學的要素を清算しなければならぬ。マクドナルドが、マルクスを以つてダーウィン以前の人物

なりといひ、従つて彼れの理論が半科學的だといつて居るのは正しい。共産主義の理論は、固定的であり教典的であり沒批判的であるが、社會民主主義の理論は彈力的であり成長的であり批判的であるといふことが出来る、社會運動の指導理論は完成的教典であつてはならない。それは實證によつて築かれ、實證によつて修正され不斷に批判的に成長して行く科學性を有するものでなければならぬ。それは科學である、しかし未完成の科學である。

(完)



昭和四年八月十日印刷  
昭和四年八月十五日發行

解放運動の  
指導理論 (非賣品)

著者

赤松克麿

發行者

東京市神田區錦町一ノ二福原ビル  
小池四郎

印刷者

東京市麹町區元圓町二ノ九  
廣安與三右衛門

印刷所

東京市麹町區元圓町二ノ九  
東水印刷所



發行所

東京、神田、錦町  
一ノ二福原ビル

クララ社

電話神田二二五二、四四九二  
總發東京四六〇三三

九州支局  
中支局  
北海支局  
關東支局  
名古屋支局

大牟田市旭町二丁目  
岡山縣笠岡町住吉三  
札幌市南八條西八ノ三  
名古支局中區上野津町二

平木大助  
岡田金一郎  
佐藤金藏  
小島平兵衛  
社會通社  
信社  
内方



# 社會主義の政治

英國労働黨の新政策綱領

英國労働黨編

山崎一雄譯

|         |             |          |          |          |          |
|---------|-------------|----------|----------|----------|----------|
| 労働黨の目的  | 労働黨の新宣言     | 平和なる革命   | 労働立法     | 國家資源の開発  | 産業の民主的管理 |
| 農業及農村生活 | 生活及労働の文明的標準 | 失業と産業の繁榮 | 現代國民のために | 次代國民のために | 財政の根本方針  |
|         |             |          |          |          | 國際的平和と協力 |
|         |             |          |          |          | 民主主義の適用  |

定價三十錢  
送料二錢

發賣 クララ社

# 社會民衆黨パンフレット

1. 安部磯雄著 立黨の精神
2. 安部磯雄著 社會民衆黨綱領解説
3. 島中雄三著 社會民衆黨宣言解説
4. 吉野作造著 議會制か！獨裁制か！
5. 小池四郎著 俸給生活者保護法
6. 馬場恒吾著 プルジョア政治の解剖
7. 小池四郎著 智識階級の行くべき道
8. 吉川末次郎著 外交政策の基調
9. 赤松克麿著 地方普通講座
10. 松下芳男著 兵役税と徴兵保険
11. 小池四郎著 俸給生活者の雇傭條件は  
かくの如くあらねばならぬ

各冊 一部十錢 送料二錢

發行所 クララ社



第八回配本

九月十五日配本豫定

失業問題

小山壽夫著

民衆外交論

龜井貫一郎著



第九回稅本

九月十五日發行

英 案 問 題

小 山 著

民 衆 外 交 論

小 山 著









~~368~~  
~~A31~~

587  
110



7  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100